西刑部西原遺跡（にしおさかべにしはらいせき）
（F区）

平成26年3月

宇都宮市教育委員会

序

本遺跡は，宇都宮市と上三川町に跨る複合型工業流通団地であるインターパーク南内に所在します。この地区内には，砂田遺跡，杉村遺跡，権現山遺跡，磯岡遺跡，立野遺跡を含む東谷・中島地区遺跡群と呼ばれる大規模な集落跡のほか，古代の官道である推定東山道など貴重な遺跡が集中している地域です。

今回，大規模店舗建設に伴い影響を受けることとなった本遺跡の取扱いにつきましては，事業者をはじめ，関係機関と協議の上，遺構の保存が不可能な部分について，記録保存のための発掘調査を実施することとなりました。その結果，古墳時代後期から平安時代にかけての集落跡の一部が確認されました。

本報告書は，発掘調査において得られた成果をまとめたものであり，多くの方々がさまざまな方面でご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが，埋蔵文化財の取扱い協議から発掘調査，そして報告書作成・刊行に至るまで多大なるご協力とご理解をいただきました，地権者並びに関係各位に対しまして，厚く御礼申し上げます。

平成26年３月31日

宇都宮市教育委員会
教育長　水　越　久　夫

例　言

1．本書は，栃木県宇都宮市インターパーク４丁目に所在する西刑部西原遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．発掘調査は，アルファクラブ株式会社による店舗建設に伴う事前調査として，発掘調査から整理・報告書刊行に至るまで業務を独立行政法人都市再生機構より委託を受けて，宇都宮市教育委員会の指導の下，株式会社日本窯業史研究所が平成24年度に実施したものである。
3．ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影は，J・T空撮　高橋　純氏に依頼して実施した。
4．現場内の基準点測量，水準測量は樋山　真司氏に依頼して実施した。
5．本報告書の執筆・編集は，株式会社日本窯業史研究所　研究員　三輪孝幸が行い，新井　潔，鈴木智子の協力を得た。ただし，第１章第１節 (1)調査に至る経緯は，宇都宮市教育委員会文化課今平利幸によるものである。
6．発掘調査，資料整理及び報告書執筆にあたって，下記の諸氏・機関からご指導並びにご協力を賜った。個々にご芳名を記して感謝の意を表したい（敬称略）。

独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部，アルファクラブ株式会社，エステート住宅産業株式会社，大藤工業，岩崎　祥

7．調査に係る図面・写真等の諸記録および出土遺物は，宇都宮市教育委員会が保管している。

凡　例

1．第１図は都市計画図「IX-IE　11-4」を部分複製加筆した，第３図は国土地理院発行２万５千分の１地形図『上三川』を部分複製加筆した。
2．挿図の縮尺は，遺構が竪穴住居跡・掘立柱建物跡・円形周溝遺構・土坑・井戸1/80，溝1/100，カマド1/40，遺物が土器・石器1/4，鉄製品1/3である。
3．遺跡・遺構の略号は以下のとおりである。
西刑部西原遺跡：UT-NS　竪穴住居跡：SI　掘立柱建物跡：SB　土坑：SK　井戸：SE
溝：SD　円形周溝遺構：SX
4．遺構図面上の北の方位は座標北を示す，土層図，断面図の水準線は海抜標高を示す。

本文目次

1　はじめに …… 7
(1)　調査に至る経過 …… 7
(2)　発掘調査の経過 …… 7
2　遺跡の位置と環境 …… 9
(1)　地理的環境 …… 9
(2)　歴史的環境 …… 9
3　調査の方法と成果 …… 11
(1)　調査の方法 …… 11
(2)　層序 …… 11
(3)　遺構と遺物 …… 13
1．竪穴住居跡 …… 13
2．掘立柱建物跡 …… 37
3．円形周溝遺構 …… 40
4．土坑 …… 42
5．井戸跡 …… 45
6．溝跡 …… 45
7．小穴 …… 46
4　総括 …… 55
報告書抄録

挿図目次

第1図　本調査範囲と周辺の地形
第2図　確認調査トレンチ配置図
第3図　遺跡の位置と周辺の遺跡
第4図　基本層序
第5図　調査区全体図
第6図　1号竪穴住居跡（SI01）及び出土遺物
第7図　2号竪穴住居跡（SI02）及び出土遺物
第8図　3号竪穴住居跡（SI03）
第9図　3号竪穴住居跡（SI03）カマド
第10図　3号竪穴住居跡（SI03）出土遺物
第11図　4号竪穴住居跡（SI04）
第12図　4号竪穴住居跡（SI04）カマド
第13図　4号竪穴住居跡（SI04）出土遺物(1)
第14図　4号竪穴住居跡（SI04）出土遺物(2)
第15図　5号竪穴住居跡（SI05）及び出土遺物
第16図　6号竪穴住居跡（SI06）
第17図　6号竪穴住居跡（SI06）カマド及び出土遺物
第18図　7号竪穴住居跡（SI07）
第19図　7号竪穴住居跡（SI07）掘方及びカマド
第20図　7号竪穴住居跡（SI07）出土遺物
第21図　8号竪穴住居跡（SI08）及び出土遺物
第22図　9号竪穴住居跡（SI09）及びカマド
第23図　9号竪穴住居跡（SI09）出土遺物
第24図　10号竪穴住居跡（SI10）及び出土遺物
第25図　11号竪穴住居跡（SI11）及びカマド
第26図　11号竪穴住居跡（SI11）出土遺物
第27図　12号竪穴住居跡（SI12）及びカマド
第28図　12号竪穴住居跡（SI12）出土遺物
第29図　13・14号竪穴住居跡（SI13・14）

第30図　13号竪穴住居跡（SI13）カマド
第31図　13号竪穴住居跡（SI13）出土遺物
第32図　1号掘立柱建物跡（SB01）及び出土遺物
第33図　2号掘立柱建物跡（SB02）
第34図　3号掘立柱建物跡（SB03）
第35図　1・2・3号円形周溝遺構（SX01・02・03）及び出土遺物
第36図　土坑及び出土遺物
第37図　9号土坑（SK09）及び出土遺物
第38図　1号井戸（SE01）及び出土遺物
第39図　1号溝（SD01）及び出土遺物
第40図　出土鉄製品
第41図　出土砥石
第42図　遺構変遷図

表　目　次

第1表　調査区内小穴計測表
第2表　出土遺物観察表
第3表　遺構別時期一覧表

図版目次

図版1　調査区遠景(南東から)　調査区遠景(北から)
図版2　SI07・08・09・SB02(空撮)　SI01(南から)　SI02(南から)　SI03(西から)　SI04(南から)
図版3　SI05(南から)　SI06(西から)　SI07(南から)　SI08(南から)　SI09(南から)　SI10(南から)　SI11(南から)　SI12(南から)
図版4　SI13(南から)　SB01(南から)　SB03(南から)　SX01・02・03（南から）　SK09(南から)　SK04(南東から)　SE01(南西から)　SD01(南から)
図版5　SI03カマド(西から)　SI04カマド(南から)　SI06カマド(西から)　SI07カマド(南から)　SI12カマド(南から)　SI11カマド(南から)　SI13カマド(南から)　SI13カマド掘方(南から)
図版6　SI01遺物出土状況(北から)　SI04遺物出土状況(南から)　SI07遺物出土状況(南から)　SI10遺物出土状況(北から)　SI12遺物出土状況(南から)　SI13遺物出土状況(東から)　SI13遺物出土状況(北から)　SK09遺物出土状況(東から)
図版7　出土遺物（土師器坏・埦）
図版8　出土遺物（須恵器坏・高台付坏・蓋・甕・壺）
図版9　出土遺物（土師器鉢・甕）
図版10　出土遺物（土師器小形甕・甕・甑・円筒土器）
図版11　鉄製品

1　はじめに

(1)　調査に至る経過

平成25年２月22日付で、アルファクラブ株式会社　代表取締役　神田成二氏より宇都宮市インターパーク４丁目２－２の一部の西刑部西原遺跡（県番号4354）内での結婚式場建設に伴い、文化財保護法93条の届出が提出された。３月６日付けで市教育委員会文化課から県教育委員会文化財課（以下県文化財課）へ進達し，これに対し、県文化財課より確認調査の必要があるとの指示が３月18日付であったため、事業者代理人であるエステート住宅産業㈱の担当者と協議し、確認調査を実施することになった。なお，事業計画地内は，土地所有者である独立行政法人都市再生機構（以下，ＵＲ都市機構と記す）が既に２ｍ程の盛土を行なっていた部分であるが，事業者側による建物の構造上２ｍ以上の基礎が必要であるとのことから，確認調査が必要であると判断された。

確認調査は、４月22日と23日に実施した。調査の方法は，建物建設が予定されている場所に，Ｔ－１（長さ約40m，幅約２ｍ）・Ｔ－２（長さ約40m，幅約２ｍ）・Ｔ－３（長さ約20m，幅約２ｍ）・Ｔ－４（長さ約34m，幅約２ｍ）・Ｔ－５（長さ約21m，幅約２ｍ）・Ｔ－６（長さ約21m，幅約２ｍ）Ｔ－７（長さ約21ｍ，幅約２ｍ）のトレンチを７本設定し，遺構の有無を確認した。

調査の結果，Ｔ－１及びＴ－２において，竪穴住居跡３軒，溝状遺構１条，土坑４基，柱穴12基が確認された。遺構は，現地表から約２ｍ掘り下げた面で確認した。土師器片等が出土していることや周辺の遺跡調査等から古代の遺構と考えられた。

Ｔ－３～Ｔ－７は，何れのトレンチも深さ約３ｍのところで砂混じりの黒色土層が確認された。盛土造成前の地形が小支谷地形であることから，トレンチ設定箇所はその部分に当たる。尚，Ｔ－７の東側５ｍでロームの地山が確認されたことから，この付近が谷地と台地との境となる。

この調査結果を５月13日に事業者側に通知し，工法等の検討をしてもらったが，中央の建物１棟については，２ｍ以上の基礎が必要であるとのことから，発掘調査が必要であることを伝えた。

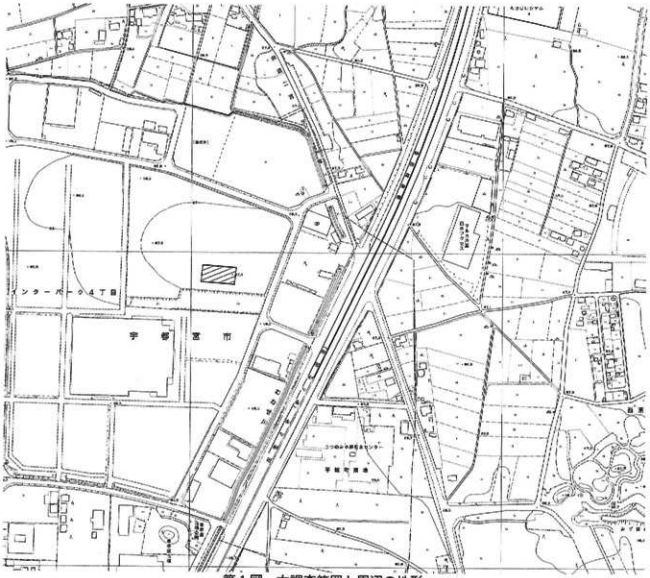
その後，土地所有者であるＵＲ都市機構と協議を行なった結果，発掘調査に関してはＵＲ都市機構が費用を負担することとなり，8月９日付けで宇都宮市教育委員会教育長水越久夫と埋蔵文化財発掘調査に関する覚書の交換を行なった。

発掘調査は、市教育委員会が調査主体となり、調査実務を㈱日本窯業史研究所が行った。調査期間は、平成25年８月12日から10月15日の約２ヶ月間である。

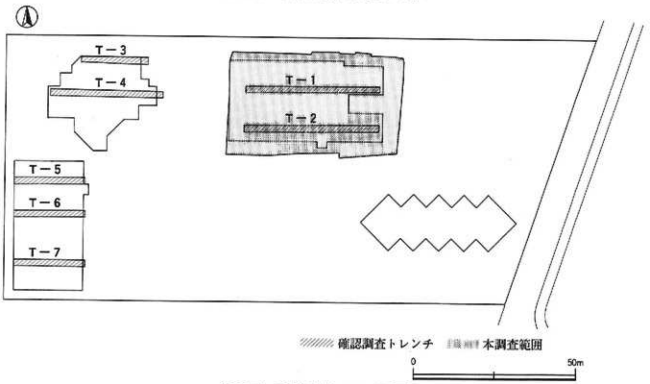
(2)　発掘調査の経過

発掘調査は平成25年８月12日より同年10月15日まで行った。

８月12日に調査範囲の設定を行い，表土掘削作業を開始し，８月24日まで行った。８月19日に機材の搬入，仮設トイレの設置，同日より掘削作業と並行して人力による遺構検出作業を開始した。８月21日から遺構調査，掘削作業を開始した。８月31日にＧＰＳにより基準点測量，水準点測量を行う。９月２日表土掘削作業と並行して遺構の掘削を行っていたため，遺構検出作業の行っていなかった残りの部分の遺構検出作業を行った。９月３日遺構配置図の作成を行う。９月13日から土坑，井戸跡，溝，小穴の掘削作業を行う。その間，逐次平面図の作成を行う。９月21日竪穴住居跡の掘方の掘削を開始する。９月27日調査区全体の清掃を



第１図　本調査範囲と周辺の地形



第２図　確認調査トレンチ配置図

行い，9月28日ラジコンヘリにより空中写真撮影を行う。10月1日基本土層観察のため，試掘坑の掘削を行い，遺構の掘削作業を終了する。その後，竪穴住居跡の掘方平面図作成等の残務整理を行い，10月4日宇都宮市教育委員会により終了立会いを行った。10月8日遺構調査を終了し，機材の撤収を行う。その後，10月15日まで埋戻し作業を行い，すべての作業を終了した。

2 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境

西刑部西原遺跡は宇都宮市南部から上三川町にかけて広がる東谷・中島遺跡群の一部にあたり，遺跡群の北に位置している。本遺跡の総面積は138,000㎡であり，本調査地点は遺跡のほぼ中央に位置している。行政区では宇都宮市インターパーク4丁目2-4である。

本遺跡は，東方約4㎞を南流する鬼怒川と西方約2.5㎞を南流する田川に挟まれた河岸段丘上に立地している。この河岸段丘は西側が田原・成願寺台地，東側が岡本・磯岡台地と呼称され，東側の台地が西側の台地に比べ比高約1～2m高い。遺跡は西側の田原・成願寺台地の東縁に立地している。

本遺跡は宇都宮市の中心より南南東約7㎞に位置し，東側には新4号国道，南約1㎞には北関東自動車道宇都宮－上三川インターが所在するなど交通の利便性の良い土地である。そのため，近年では大型商業施設や流通業務施設などの建設による開発が進み，周辺地域には田園風景が残るものの環境の変化の激しい地域となっている。

(2) 歴史的環境

西刑部西原遺跡周辺では，南北に通る台地上に数多くの遺跡が分布し，特に宇都宮市南部から上三川町にかけては古代下野国の一中心地ともなっていた。ここでは，本調査区で確認された古墳時代から奈良平安時代を中心に，周辺の遺跡を説明していくことにする。

旧石器時代

東谷・中島遺跡群では立野遺跡(19)，磯岡遺跡(23)から遺物が出土している。本遺跡でも，隣接地点の調査で遺物が出土しているが，本調査区からはなにも出土しなかった。

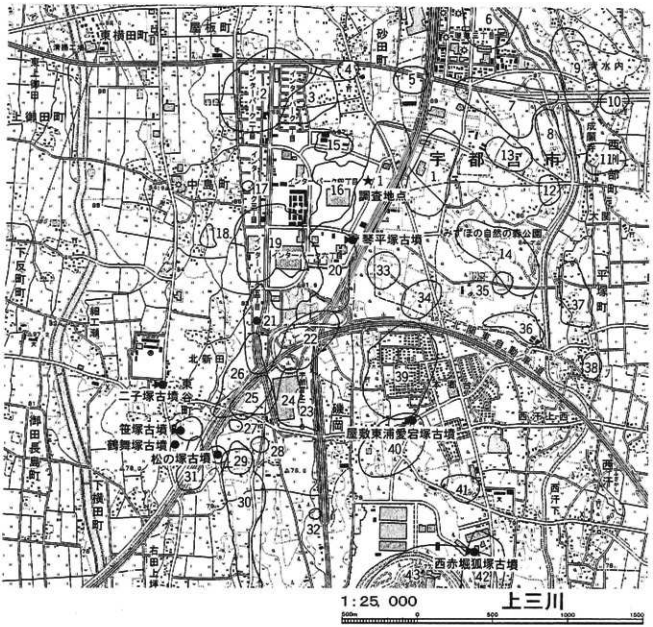
縄文時代

草創期は砂田姥沼遺跡(15)，仏沼遺跡，大町遺跡などで遺物が出土しているものの，遺構は確認されていない。早・前期では遺物の出土する遺跡が増加するものの，遺構を検出した遺跡は少ない。中期に入り，各地で大規模な集落が営まれるようになり，石川坪遺跡，島田遺跡などで多数の竪穴住居跡が検出されている。後期では中期とさほど変わりはなく，晩期に至ってまた遺跡の数が減少する。

古墳時代

中期に入ると田原･成願寺台地を中心に大規模な集落が展開するようになる。砂田遺跡(2)，砂田姥沼遺跡，立野遺跡などで竪穴住居跡が確認されている。また，中期を特徴づける大型前方後円墳の笹塚古墳が本遺跡の南西約2㎞に位置している。全長約100m，前方部幅48m，後円部径63mは5世紀後半では県内最大規模の前方後円墳である。

後期には，田原・成願寺台地から東側の岡本・磯岡台地へと遺跡の分布が広がり，比較的大規模な遺跡として砂田遺跡，立野遺跡，原遺跡(25)，成願寺遺跡(10)，杉村遺跡(22)，西赤堀遺跡(39)，磯岡遺跡(23)な



1　西刑部西原遺跡　2　砂田遺跡　3　砂田滝遺跡　4　砂田東遺跡　5　上横田A遺跡　6　瑞穂野団地遺跡
7　大岡台遺跡　8　小屋原遺跡　9　藤原遺跡　10　成願寺遺跡　11　榎戸遺跡　12　後尚塚遺跡　13　中道遺跡
14　小屋原高塚群　15　砂田姥沼遺跡　16　中島笹塚遺跡　17　赤沢高塚群18　芋内遺跡　19　立野遺跡　20　磯岡北遺跡　21桜稲荷古墳　22　杉村遺跡　23　磯岡遺跡　24　磯岡北遺跡　25　原遺跡　26　権現山遺跡　27　原古墳群　28　車塚古墳群　29　権現塚古墳群　30　上石田古墳群　31　百目鬼遺跡　32　磯岡B遺跡　33西沼遺跡
34　内野遺跡　35　不動遺跡　36　下小屋原遺跡　37　平塚原模岸遺跡　38　南浦遺跡　39　西赤堀遺跡
40　磯岡・西汗の古墳　41　西赤堀東遺跡　42　西赤堀南遺跡　43　上郷古墳群

第3図　遺跡の位置と周辺の遺跡

どが所在している。後期の大型前方後円墳は摩利支天塚古墳，琵琶塚古墳，吾妻古墳などが立地する小山市から栃木市にかけてその分布を移すが，本遺跡周辺でも琴平塚古墳などが築造される。

奈良・平安時代

本地域は古代下野国河内郡刑部郷にあたると推定されており，前代の古墳時代後期よりも遺跡数が増加している。本遺跡周辺では，河内郡衙と推定されている多功遺跡，河内郡の関連行政施設と考えられている上神主茂原官衙遺跡，大型掘立柱建物跡が検出されている赤堀遺跡など重要な遺跡が集中している。近年の調査から，東山道跡も杉村遺跡で確認されており，当遺跡の東方を通り北へ伸びていることが確認されている。

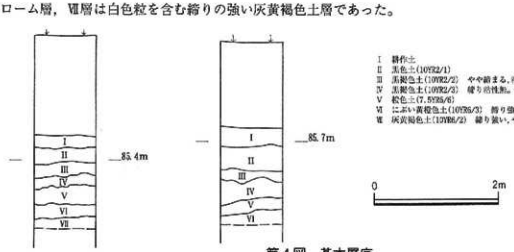
3　調査の方法と成果

(1)　調査の方法

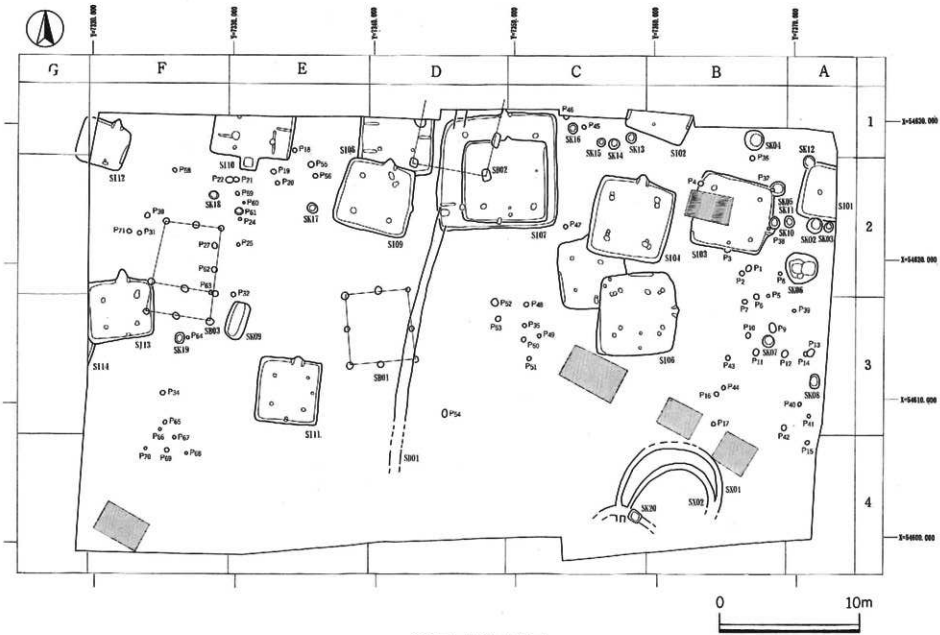
遺構の調査は検出作業により新旧関係を確認したのち，竪穴住居跡はカマドに中心軸を取り，セクションベルトを設定４分割して掘削を行った。土坑，井戸，小穴等は半裁により土層の堆積状況の観察を行った。溝跡は中央部分にセクションベルトを残し，完掘した。出土遺物は遺構の時期を特定でき，ある程度の大きさを持ったものを残し，４分割或いは２分割した掘削箇所に仮称の番号を設定し取り上げを行った。残した遺物に関しては位置と高さを記録し，出土状況の写真撮影を行い，出土番号を付けたのち取り上げを行った。竪穴住居跡の土層堆積状況の観察，記録はカマドを中心として竪穴住居跡の右側の面とカマドの反対側の２面の記録を行った。また，調査区外に延びる遺構に関しては，現地表面から（盛土部分を含む）土層断面の記録を行った。カマドは主軸方向とそれに直行し，袖が想定される位置で４分割し，掘削を行いつつ，土層断面の観察・記録を行った。写真は主軸方向の土層断面を撮影した。カマドが完掘されたのち竪穴住居跡の写真撮影を行った。平面図の作成ののち掘方の掘削を行った。掘方はセクションベルトを残し，地山面まで掘り下げた。その後，平面図の作成，写真撮影を行い，竪穴住居跡の調査は終了した。土坑，井戸は半裁を行い，土層断面図の作成，写真撮影，完掘，平面図作成を行い終了した。土層断面図は手実測，平面図と遺物位置図はトータルステーションにより座標の測定を行い，人手によって作図を行った。縮尺は20分の１を基本とし，カマドは10分の1，遺構配置図は200分の１で作成した。写真は35mm白黒，リバーサルで撮影し，デジタルカメラで補足撮影を行った。撮影方向は主軸に合わせて撮影し，適宜方向を変えて撮影した。

(2)　層序

調査区周辺は東谷・中島地区土地区画整理事業の進行に伴って，区画整理が進み大型商業施設や流通業務施設などの建設が進んでいる。調査対象地区も区画整理事業に伴って旧地表より２ｍほどの盛土がなされ，遊休地となり背丈ほどの雑草で覆われていた。遺構確認面は良好な状態で残り，調査区の北東から南西に向かって緩やかに傾斜していた。そのため，基本層序の確認のための試掘坑は調査区の南東と西側の，遺構の無い部分に設定し掘削を行った。しかし，２か所の層位に変化が認められなかったことから，新たに調査区の北側２号竪穴住居跡の東側に試掘坑を掘削することにした。その結果，旧地表面下の層位を北側の試掘坑ではⅠ～Ⅵ層，南側の試掘坑ではⅠ～Ⅶ層に分層した。Ⅰ層は盛土の下の耕作土，Ⅱ層は黒色土層，Ⅲ層は今市軽石，七本桜軽石を包含する黒褐色土層，Ⅳ層はローム漸移層，Ⅴ層は硬質ローム層，Ⅵ層は暗褐色のローム層，Ⅶ層は白色粒を含む締りの強い灰黄褐色土層であった。



第４図　基本層序


G
F
E
D
C
B
A
1
2
3
4
0
10m
S101
S102
S103
S104
S105
S106
S107
S108
S109
S111
S112
S113
S114
SK12
SK13
SK14
SK15
SK16
SK17
SK18
SK19
SK20
SK30
SX01
SX02
SX03
SX05
SX06
SX07
SD01
SD02
SD03
SD05

第５図　調査区全体図

(3) 遺構と遺物

今次調査の結果，古墳時代から奈良平安時代にかけての集落跡を確認した。確認した遺構は竪穴住居跡14軒，掘立柱建物跡３棟，円形周溝遺構３基，土坑19基（そのうち１基は土壙墓と考えられる），井戸跡１基，溝跡１条，小穴66基を確認した。出土遺物は土師器（坏・埦・甕・甑），須恵器（坏・高台付坏・蓋・甕），鉄製品（鏃・刀子・鎌），砥石などである。

１．竪穴住居跡

１号竪穴住居跡（SI01）（第６図）

位置　A-2グリットに位置し，東側のほぼ半分が調査区外に延びている。北西隅で12号土坑と，南壁中央で２・３号土坑と重複し切られている。

規模と構造　南北４ｍを測り，東西方向の長方形と推定され，深さは北壁で55cmである。主軸方向はN-13°-E。壁溝は北・西・南壁際で確認し，幅24～32，深さ４～10cmを測る。主柱穴はＰ１のみを確認した。

床　中央に硬化面が認められ，掘方は壁際に沿って掘り込まれ，北西，南西隅が土坑状をしている。

カマド　認められなかったが，調査区壁の土層観察の結果中央に白色粘土の塊が確認できたことから，カマドは北壁に設けられていたと推測される。

埋積土　５層に分層され，自然堆積を呈する。

遺物出土状況　南壁際中央から須恵器坏(3)の完形と甕(10)の破片が出土したほかは，埋積土中より破片が出土したのみである。

出土遺物　１は土師器坏の破片，2は土師器脚部の破片か，3～５は須恵器坏，3は体部外面に「林」の墨書が認められる。７・８は土師器甕，９・10は須恵器甕の破片で，10の底部外面はよく磨れている。第40図-15は鏃と考えられる。刃部と茎を欠損する。

２号竪穴住居跡（SI02）（第７図）

位置　B･C-1グリットに位置し，北側の調査区外に延びている。

規模と構造　東西4.6mの方形と推測され，深さは68cmを測る。主軸方向はN-20°-E。壁溝は東西の壁下に認められ，幅６～22cm，深さ４～８cmを測る。主柱穴は確認できなかった。

床　上位ローム層を床面とし掘り込み，直床で，掘方は認められなかった。

カマド　確認できなかった。

埋積土　５層に分層され，自然堆積を呈する。

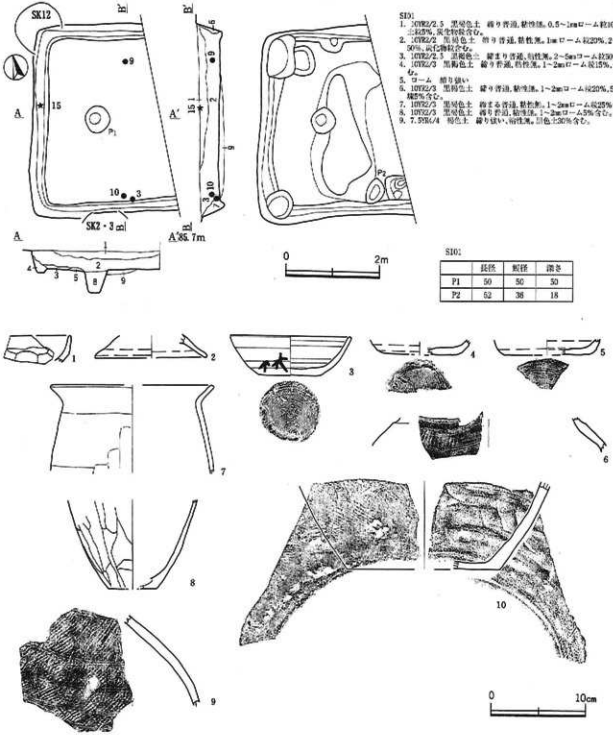
遺物出土状況　埋積土上層から多量の土師器，須恵器が含まれるが中層・下層からの出土は少ない。

出土遺物　１は土師器坏で，内面黒色処理。２は須恵器坏。３は須恵器蓋で，口縁部がやや外反する。よく焼き締まる。４は須恵器高台付坏。約２分の１の個体。

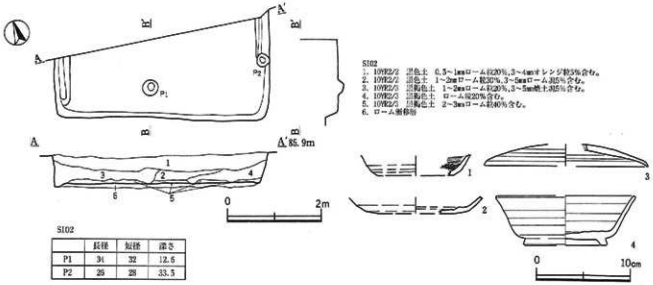
３号竪穴住居跡（SI03）（第8～10図）

位置　B-2グリットに位置する。北東隅で5号土坑，カマド部分で11号土坑に切られている。また，住居西部が攪乱により大きく切られている。

規模と構造　長軸5.6，短軸5.4ｍを測り，西壁が東壁に比べやや長い台形状である。深さは65cmを測る。主軸方向はN-104°-E。壁溝は西壁には認められず，幅32～40cm，深さ28～61cmを測る。主柱穴はP1～4



第６図　１号竪穴住居跡（SI01）及び出土遺物



S102

	長径	短径	深さ
P1	34	32	12.5
P2	25	28	33.5

第７図　２号竪穴住居跡（S102）及び出土遺物

を確認した。

床　中央部に硬化面が認められる。掘方は西・南壁からカマドにかけて溝状に掘方を掘り，黒色土を埋め戻している。カマド前には土坑状の掘り込みを複数掘り込み，白色粘土，焼土粒によって埋められている。

カマド　東壁中央やや南寄りに設けられ，11号土坑に切られている。煙道を逆U字状に掘り込み，火床はローム層を掘り込み，11層を埋め戻して作られていた。両袖が遺存しローム層を掘り残し白色粘土を主体にして作られていた。天井部は崩落し，カマド内に堆積していた。煙道部は一部，植物繊維の入った粘土が焼けた状態で遺存していた。支脚は認められなかった。

埋積土　10層ほどに分層され，自然堆積を呈するが，焼土粒・焼土塊を含む層位が認められる。

遺物出土状況　南壁際，埋積土中より鉄鏃(17)が出土し，南西隅の床面上より，土師器甕の破片，土師器坏(3)３分の２個体の破片が出土した。

出土遺物　１～６・８～10は土師器坏，７は土師器埦，11～13は須恵器蓋，14は須恵器坏，15～20は土師器甕。１～４は半球形状を呈する，５は底部が大きく削られている。７は口縁部が玉縁状を呈し，鋼椀状の器形である。８～10は体部に稜を持っている。11は破片であるが口径が通常より小ぶりである。18・19は底部に木葉痕を残す。

第40図－17は三角鏃の身の部分である。茎を欠損する。

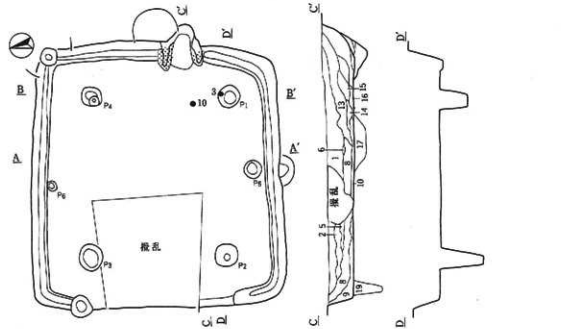
４号竪穴住居跡（S104）（第11～14図）

位置　B-C-2グリットに位置し，5号竪穴住居跡を切っている。主柱穴の数から，２回の建て替えが行われていたと考えられる。

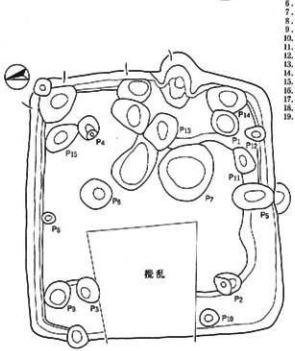
規模と構造　長軸5.76，短軸5.7mの方形である。深さは北壁で63cm を測る。主軸方向はN-11°-E。壁溝は全周し，南壁側では建て替え前の壁溝を確認した。壁溝の底面には工具痕が認められた。幅20～80cm，深さ3.4～6cmである。主柱穴はP5・9・11・8が建て替え前で，P1・2・3・4が建て替え後と考えられる。

床　中央部に硬化面が認められる。掘方は四隅が掘り窪められていた。

カマド　北壁中央に設けられている。煙道部を逆U字状に掘り込み，袖から煙道部にかけて粘土によって作られていた。燃焼部から煙道部にかけては緩やかにカーブを描きながら立ち上がり，煙道部はほぼ垂直にな



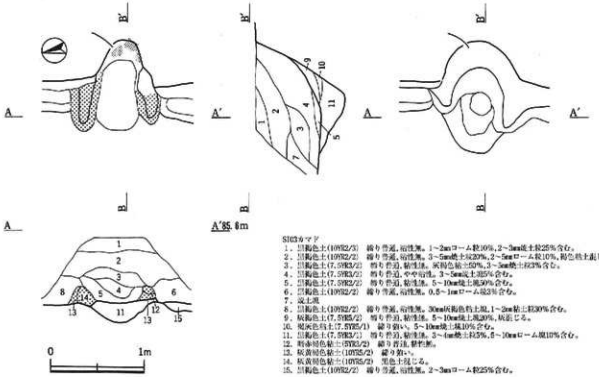
1．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組、粘性強。0.5～1mローム粒30%、1mm風土粒、炭化粒5%含む。
2．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組、粘性強。0.5～1mローム粒25%、3～5mローム塊5%、風土粒2%含む。
3．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組、粘性強。焼土粒40%、3～5mm風土粒30%含む。
4．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組、粘性強。1mmローム粒30%、5～10mmローム塊、15mm黒色土塊10%、焼土若干含む。
5．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組、粘性強。1mmローム粒5%、20～30mmローム塊、黒色土塊10%含む。
6．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組、粘性強。1～1.5mm焼土粒3%、炭化物微粒0%含む。
7．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組、粘性強。1～2mmローム粒30%、10mmローム塊、黒色土塊20%含む。
8．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組、粘性強。1～2mmローム粒5%、3～5mm風土粒、炭化物粒3%含む。
9．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組、粘性強。炭子を含まない土塊。
10．黒褐色土(10YR2/3)　やや緩まる。10～20mmローム塊、黒色土粒30%、風土粒5%含む。
11．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組。1mmローム粒3%、ローム土含む。
12．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組、粘性強。ローム土粒30%含む。
13．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組、粘性強。0.5～1mmローム粒5%、2～3mmローム塊、風土粒20%含む。
14．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組、粘性強。5～10mm焼土粒30%、黒色土粒10%含む。
15．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組、粘性強。5～10mm焼土粒10%、黒色土粒10%含む。
16．黒褐色土(10YR2/3)　緩や骨組、粘性強。10～20mmローム粒25%、焼土粒30%、黒色土塊10%含む。
17．黒褐色土(10YR2/2)　やや緩まる。0.5mmローム粒5%、ローム土10%含む。
18．にぶい褐色土(7.5YR4/4)　緩まる。黒色土30%含む。
19．黒褐色土(10YR2/2)　緩や骨組、粘性強。3～5mmローム塊25%含む。



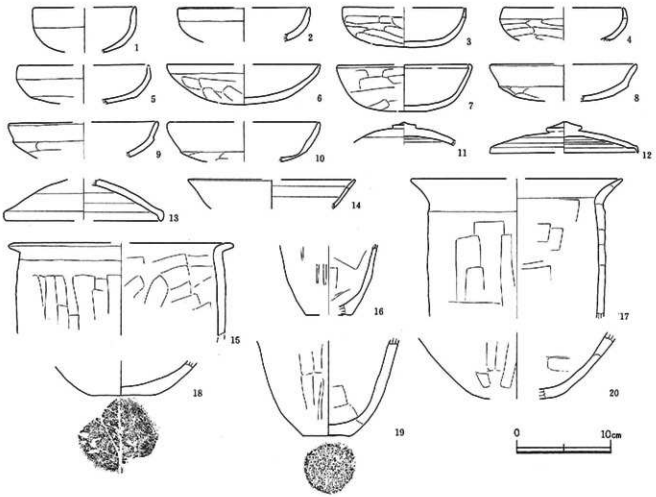
SI03

	長径	短径	面積
P1	66	42	60.8
P2	50	66	93.9
P3	58	52	92.2
P4	48	42	56
P5	38	36	26.2
P6	20	18	18.5
P7	120	118	12.3
P8	62	62	7.4
P9	58	50	17.5
P10	40	38	57.5
P11	56	42	13.1
P12	46	30	9.1
P13	74	60	18.3
P14	84	60	28.6

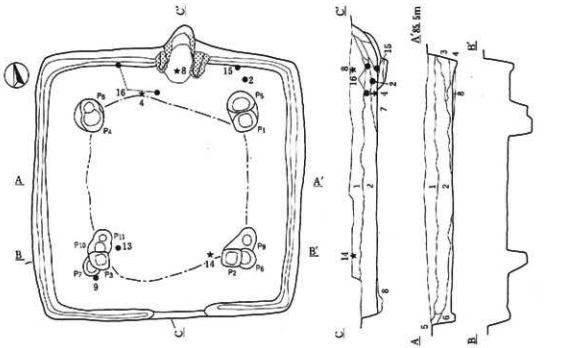
第８図　３号竪穴住居跡（SI03）

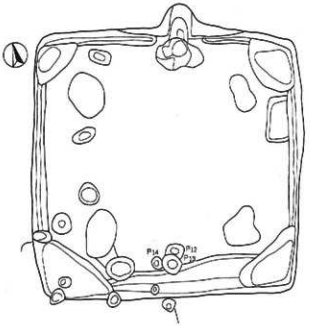


第９図　３号竪穴住居跡（SI03）カマド



第10図　３号竪穴住居跡（SI03）出土遺物





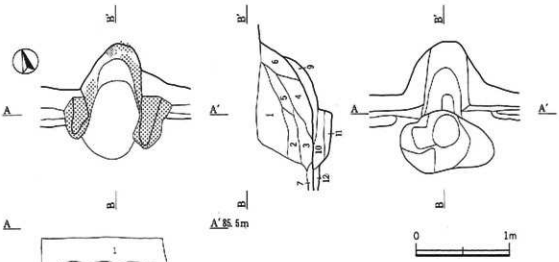
SI04

1. 黒褐色土(10YR2/2)　焼き砂混、粘性強。0.5~1m ローム粒20%、2~3cm 炭土粒10%含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)　焼き砂混、粘性強。1~2cm ローム粒30%、3~5cm 焼土塊10%含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)　焼き砂混、粘性強。0.5~1cm ローム粒5%含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)　やや固まる。粘性強。1~2cm ローム粒5%、10~20cm ローム塊3%含む。
5. 黒褐色土(10YR2/2)　焼き砂混、粘性強。1~3cm ローム粒10%、3~5cm ローム塊3%含む。
6. 黒褐色土(10YR2/2)　焼き砂混、粘性強。1~2cm ローム粒3%、焼土粒、炭化床含む。
7. 褐灰色粘土(10YR4/1)　やや粘土。3~5cm 焼土粒20%含む。
8. 黒色土(10YR1/2)

SI04

	長径	短径	深さ		長径	短径	深さ
P1	52	40	43.6	P8	38	-	49.1
P2	42	38	50.4	P9	40	-	
P3	42	39	40.8	P10	46	-	41.9
P4	47	-	46.8	P11	40	-	41.6
P5	60	45	58.2	P12	37	-	10.8
P6	42	-	37.5	P13	45	38	24.8
P7	40	-	29.8	P14	30	25	27.2

第11図　4号竪穴住居跡（SI04）



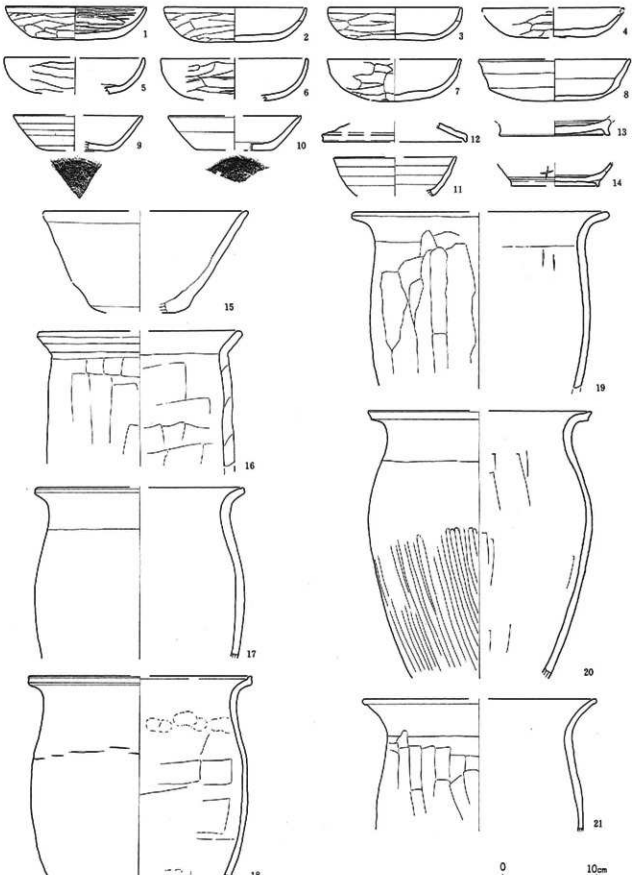
第12図　4号竪穴住居跡（S104）カマド

る。支脚は認められなかった。掘方は火床下位を不正円形に掘り込み，工具痕の痕跡を残す。

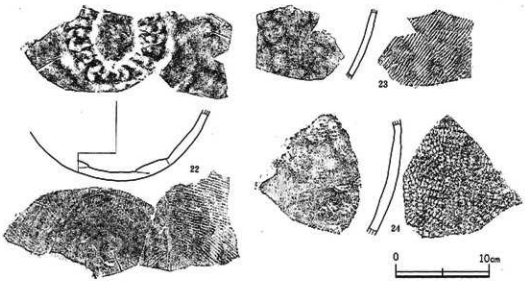
埋積土　7層に分層され，自然堆積である。

遺物出土状況　南壁際中央より，編み物石と考えられる長楕円形の川原石がまとまって出土した。カマド右わき，床面上から土師器鉢(15)と坏(2) 2分の1個体，カマド左脇床面より若干浮いた堆積土中より土師器甕(16)の破片と鎌(4)が出土した。

出土遺物　1～8は土師器坏で，1～4は底部がやや平坦である。口縁部はヨコナデ，体・底部がヘラ削りされる。1は内面に明瞭に磨きが残る。8は体部に稜を持ち口縁部は外反する。9・10は須恵器坏。ロクロ整形，底部糸切り。13・14は須恵器高台付坏で，13は体部を欠いた後蓋皿として転用したものかと考えられる。14は体部に「×」のヘラ記号。15は土師器鉢，底部がもろく欠損する。16～21は土師器甕。16は口縁部にヘラナデか，明瞭な稜の痕跡が認められる。17・18・20は常総型の甕。17は口唇部の立ち上がりが退化している。22～24は須恵器壺。22・23は同一個体と考えられる。22は図の状態で焼成されたと考えられる。24は格子目のタタキ，胎土が柔らかく，焼成温度が低かったと考えられる。40図2は刀子，4・6・8は鎌，14は鐙である。2は刃部と茎を欠損する。4はほぼ完形品である。歯の部分の曲りは少ないが身の幅が細くなっている。6は歯の先端部の破片である。8は歯の中ほどより先端が欠損している。14は茎を欠損し，片側に棘がある。20は鐙の破片か。第41図－1は砥石で，側面の4面が使用されているが自然面が残る。



第13図　4号竪穴住居跡（SI04）出土遺物（1）



第14図　4号竪穴住居跡（SI04）出土遺物（2）

5号竪穴住居跡（SI05）（第15図）

位置　C-2・3グリットに位置し，4・6号竪穴住居跡に切られている。

規模と構造　長軸5.04，短軸4.94mの方形である。深さは16.5cmを測る。主軸方向はN-7°-W。主柱穴はP1～P4である。

床　ローム上層を掘り込んではいるが軟弱である。掘方は東壁際を僅かに掘り込んでいる。

カマド　北壁中央に設けられ，東側を4号竪穴住居跡に切られる。火床は床面とほぼ同じ高さで，煙道部は緩くたちあがる。支脚は認められなかった。

埋積土　自然堆積をするものの，カマド周辺南壁際と南壁際に焼土が堆積し一部炭化材が出土した。

遺物出土状況　遺物は小片のみである。

出土遺物　1～3が土師器坏，4は須恵器坏，5は土師器甕の口縁部でいずれも小片である。

6号竪穴住居跡（SI06）（第16・17図）

位置　B・C-2・3グリットに位置し，5号竪穴住居跡を切っている。主柱穴の数から1回の建て替えによって南と西に拡張したものと考えられる。

規模と構造　長軸5.72，短軸5.72mの方形で，深さは49cmを測る。主軸方向はN-91°-E。壁溝は西壁際に認められ，幅44cm，深さ7cmを測る。主柱穴はP1～P4が建て替え前，P5～P8建て替え後と考えられる。

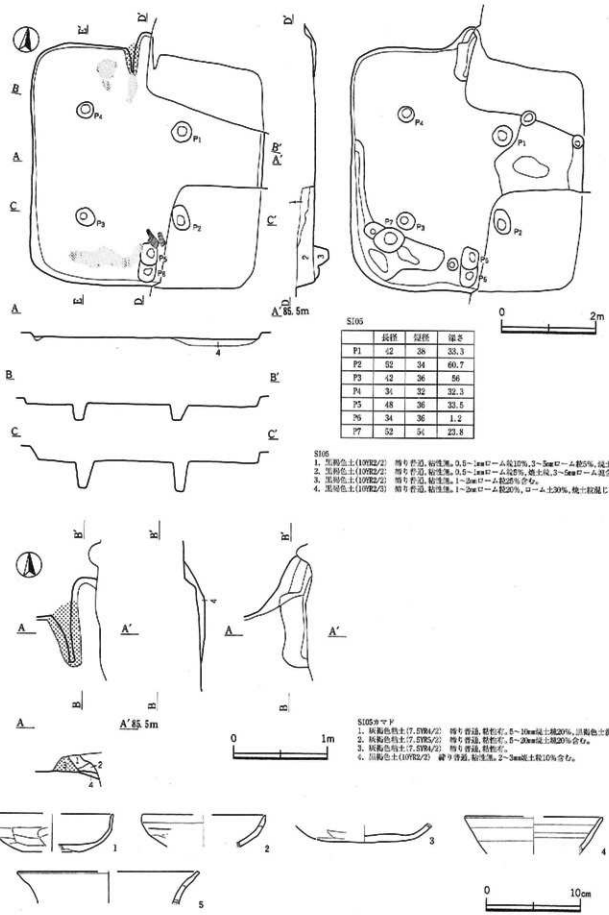
床　中央部に硬化面が認められる。掘方は中央部を掘り残して周囲を掘り窪め，四隅は土坑状に掘り込む。黒色土で埋戻し，ローム塊によって貼り床が作られる。

カマド　東壁中央に設けられ，煙道部はU字状に掘り込まれる。燃焼部に灰が遺存し，火床に焼土塊が認められる。袖は粘土で作られ，煙道は植物繊維の入った粘土が焼けて遺存していた。支脚は確認できなかった。

埋積土　自然堆積を呈するも，住居中央に北から南にかけてのロームの投げ込みが認められる。

遺物出土状況　カマド周辺の埋積土中から多くが出土した。

出土遺物　1・2は土師器坏，口縁部ヨコナデ，体・底部ヘラ削り整形される。3は須恵器蓋，口縁部が直に立ちあがる。4は須恵器高台付坏，高台を欠損し，表面は磨滅している。5は須恵器壺の口縁部片。6は土師器鉢の破片，内外面がよく磨かれている。7は土師器小形甕，8～11は土師器甕，10・11は二次被熱を受けている。



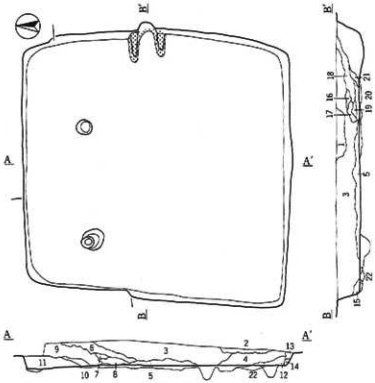
S105

	長径	短径	深さ
P1	42	38	33.3
P2	52	34	60.7
P3	42	36	56
P4	34	32	32.3
P5	48	36	33.5
P6	34	36	1.2
P7	52	54	23.8

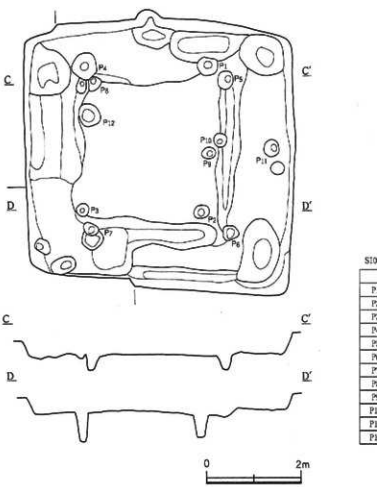
S105
1. 黒褐色土(10YR2/2)　粗り砂質,粘性強。0.5～1mローム粒10%,3～5mローム粒5%,焼土粒含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)　粗り砂質,粘性強。0.5～1mローム粒5%,焼土粒,3～5mローム粒含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)　粗り砂質,粘性強。1～2mローム粒25%含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3)　粗り砂質,粘性強。1～2mローム粒20%,ローム土30%,焼土粒混じる。

S105ポット
1. 暗褐色粘土(7.5YR4/2)　粗り砂質,粘性弱。5～10mm焼土粒20%,黒褐色土粒じる。
2. 暗褐色粘土(7.5YR5/2)　粗り砂質,粘性弱。5～20mm焼土粒20%含む。
3. 暗褐色粘土(7.5YR4/2)　粗り砂質,粘性弱。
4. 黒褐色土(10YR2/2)　細り砂質,粘性強。2～3mm焼土粒10%含む。

第15図　5号竪穴住居跡（S105）及び出土遺物



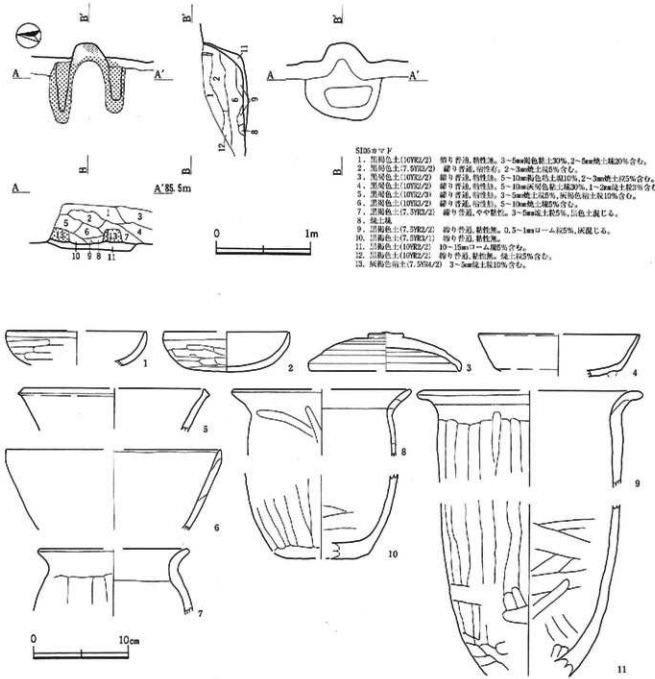
1．黒褐色土(10YR2/2.5)　締り普通，粘性無。1～2mローム粒30%，5～10mローム塊3%，焼土粒，炭化粒含む。
2．黒褐色土(10YR2/3)　締り普通，粘性無。1～2mローム粒25%，焼土粒，炭化粒混じる。
3．黒褐色土(10YR2/2)　締り普通，粘性無。1～2mローム粒25%，10～15mローム塊3%，焼土粒，炭化粒含む。
4．黒褐色土(10YR2/1.5)　やや締まる，粘性無。0.5～1mローム粒20%，炭化粒，焼土粒含む。
5．黒褐色土(10YR2/2)　締り普通，粘性無。0.5～1mローム粒10%，20～30mローム塊5%，ローム小粒こる。
6．黒褐色土(10YR2/3)　締り普通，粘性無。ローム上50%，30～50mローム塊20%含む。
7．黒褐色土(10YR2/3)　締り普通，粘性無。20～30mの褐色土塊50%含む。
8．黒褐色土(10YR2/2)　やや締まる，褐色土混じる。
9．黒褐色土(10YR2/2)　締り普通，粘性無。1～2mローム粒20%，焼土粒5%含む。
10．黒褐色土(10YR2/2)　締り普通，粘性無。黒色土混じり，0.5～1mローム粒3%含む。
11．黒褐色土(10YR2/2.5)　締り普通，粘性無。1～2.5mローム粒25%，5～10mローム塊，焼土粒3%含む。
12．黒褐色土(10YR2/2)　締り普通，粘性無。0.5～1mローム粒10%含む。
13．黒褐色土(10YR2/3)　締り普通，粘性無。黒色土混じる。
14．黒褐色土(10YR2/3)　締り悪い，粘性無。ローム土混じる。
15．黒褐色土(10YR2/3)　締り普通，粘性無。3～5mローム塊5%，2～3mローム粒10%含む。
16．黒褐色土(10YR2/3)　締り普通，粘性無。焼土粒2%，灰褐色粘土含む。
17．黒褐色土(10YR2/2)　締り普通，粘性無。0.5～1mローム粒20%，3～5mの焼土塊3%含む。
18．黒褐色土(10YR2/2)　締り普通，粘性無。1～2mローム粒20%，3～5mの焼土粒10%，灰褐色粘土塊30%含む。
19．黒褐色土(10YR2/2)　締り普通，粘性無。3～5mの灰褐色粘土塊30%含む。



SI06

	長径	短径	深さ
P1	44	36	69
P2	32	28	39.7
P3	28	28	69
P4	52	52	45.2
P5	36	32	37.8
P6	34	30	38.7
P7	34	26	52.5
P8	32	26	42.8
P9	32	26	31.3
P10	28	26	22.9
P11	36	31	21.6
P12	48	46	24.9

第16図　6号竪穴住居跡（SI06）



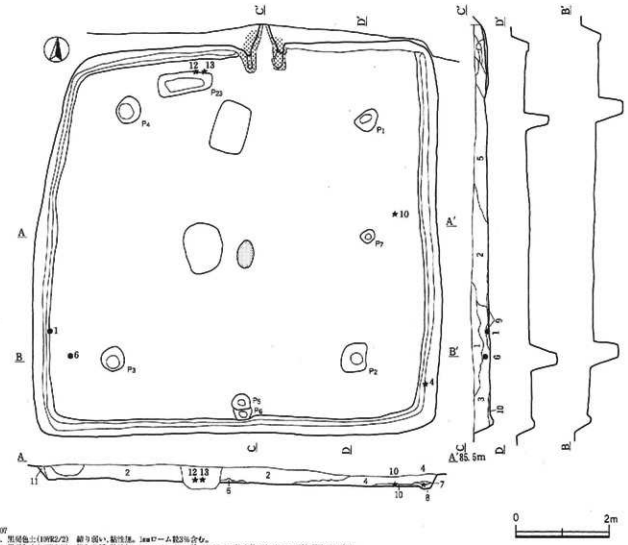
第17図　6号竪穴住居跡（SI06）カマド及び出土遺物

7号竪穴住居跡（SI07）（第18～20図）

位置　C・D-1・2グリットに位置し，1号溝と第2号掘立柱建物跡に切られている。内側に別な竪穴住居跡が認められるが，土層断面では新旧関係を捉えることができず，また，カマドも埋積土中では確認することができなかった。外側の竪穴住居跡をSI07A，内側の竪穴住居跡をSI07Bとする。

規模と構造　長軸8.7，短軸8.2mの方形で，深さは42cm を測る。主軸方向はN-4°-W。壁溝は全周し，幅32～42，深さ3～5cm を測る。主柱穴はP1・2・3・4がSI07A，P8・9・10・11・12・13・14がSI07Bで建て替えが行われている。P11はほかに柱穴を確認できなかったことから，建て替え前の柱穴と共有していた可能性がある。P5・6・15・16・17は出入り口の小穴と考えられる。

床　SI07Bの床面に硬化面が認められる。床面中央よりSI07Aの北・西側の床面のレベルが若干高いが，SI07B



SI07
1．黒褐色土(10YR2/2)　緩り強い，粘性強。1mローム粒5%含む。
2．黒褐色土(10YR2/2)　緩り普通，粘性強。1～1.5mローム粒5%，1～2mの焼土粒30%，2～3mの灰色粘土30%含む。
3．黒褐色土(10YR2/2)　緩り普通，粘性強。1～2mローム粒10%，2mの焼土粒5%，炭化粒2%含む。
4．黒褐色土(10YR2/2)　緩り普通，粘性強。2mローム粒5%，2～3.5mの焼土粒5%含む。
5．黒褐色土(10YR2/2)　緩り普通，粘性強。2mローム粒5%，2～3mの焼土粒20%，5mの焼土粒3%，炭化物粒，3～10mm灰色粘土10%含む。
6．黒褐色土(10YR2/2)　緩り普通，粘性強。2m～3mの焼土粒10%，2～3mの灰色粘土粒20%，黄色粘土混入する。
7．黒褐色土(10YR2/2)　緩り普通，粘性強。10mm白色土粒10%含む。
8．黒褐色土(10YR2/2)　やや緩まり，粘性無。1～1.5mローム粒20%，3～5mローム粒5%含む。
9．黒褐色土(10YR2/1.5)　緩り普通，粘性無。0.5～1mローム粒5%，1～2mの焼土粒3%含む。
10．黒褐色土(10YR2/2)　緩り強い，やや粘性。2～3mローム粒10%含む。
11．黒褐色土(10YR2/2)　緩まり弱い，粘性無。ローム土5%含む。

第18図　7号竪穴住居跡（SI07）

の床面上に貼り床は認められなかったことから，中央部分のみ新旧の住居が床面を共有していたものと考えられる。床面中央が焼けている。掘方は新旧双方の住居の四隅を僅かに掘り窪める。

カマド　SI07Aカマド　北壁中央に設けられている。凸形に掘り込まれ，袖から燃焼部壁面まで粘土で構築されていた。火床は床面とほぼ同じ高さで，煙道はゆっくりと立ち上がっている。支脚は認められなかった。掘方は床面を円形に掘り込んでいる。 SI07Bカマド　掘方のみを確認した。煙道部はU字状に掘り込まれていた。

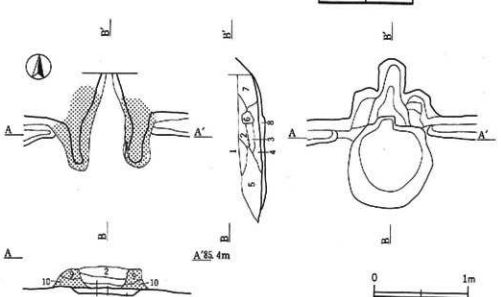
埋積土　11層に分層され，自然堆積を示す。

遺物出土状況　埋積土中の遺物は小片が多いが，土師器坏類が南西隅付近や，南壁中央付近の埋積土中から出土している。また鉄製品（12･13）が小穴（P23）の北側，東壁中央付近，南東付近のいずれも床面上から出土している。

出土遺物　1～5は土師器坏で，1～4は体部に稜を持ち，体･底部ヘラ削り整形される。5は稜を持たない。

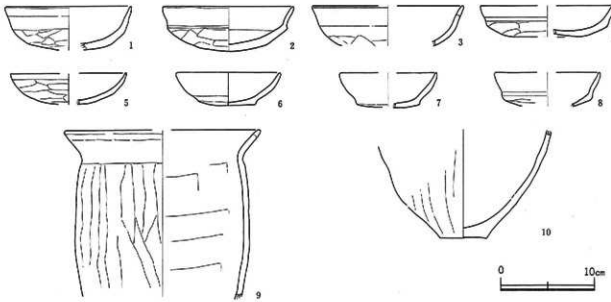
SI07

	長径	短径	深さ		長径	短径	深さ
P1	80	38	50	P12	52	42	56.8
P2	58	52	53	P13	80	–	50.8
P3	52	50	53	P14	60	36	52
P4	54	50	54	P15	27	26	38.6
P5	60	32	26.1	P16	50	–	38.4
P6	32	–	13	P17	32	28	54
P7	30	30	21	P18	24	23	24
P8	62	50	27.4	P19	30	26	23
P9	50	48	37.3	P20	29	28	22.8
P10	52	42	51	P21	39	35	16.8
P11	64	48	59	P22	32	31	12.2



SI07カマド
1. 黒褐色土(10YR2/2)　焼き砂混、粘性無。2～3mm焼土粒5%含む。
2. 黒褐色土(7.5YR4/1)　焼き強い、粘性有。2～3mm焼土粒10%、黒褐色土混じる。
3. 焼土粒・塊
4. 黒褐色土(10YR2/2)　焼き砂混、粘性無。3～5mm焼土粒10%、黒色土粒じる。
5. 黒褐色土(10YR2/2)　焼き砂混、粘性無。3～4mm灰褐色粘土粒30%、焼土粒5%含む。
6. 焼土塊
7. 黒褐色土(7.5YR4/6)　細き強い、粘性無。黒色土粒じる。
8. 黒褐色土(10YR2/2)　焼き砂混、粘性無。3～4mm焼土粒5%含む。
9. 褐灰色粘土(10YR5/1)
10. 褐灰色粘土(10YR4/1)　2～5mmローム粒3%、焼土粒5%含む。

第19図　7号竪穴住居跡（SI07）掘方及びカマド



第20図　7号竪穴住居跡（SI07）出土遺物

6～8は小型の土師器坏で体部に稜を持つ。6・7は稜が下端に位置し，体部と底部が不明瞭である。9・10は土師器甕。9は口縁部ヨコナデ，体部縦方向のヘラ削り。

第40図1は刀子，10・11は槍鉋か，12・13は鎌，21は鎌の一部か，22は鬥と推測される。1は刃部と茎を欠損する。10・11は刃部が断面三角形をすることから槍鉋と推測される。茎の部分に木質が残る。12は茎，13は刃部と茎を欠損する。21は茎の破片か。22は先端部が平たくなり，鈑が嚙ち込まれている。第41図－2は砥石で，表裏面が使用され，中央部で欠損する。3は側面が使用されているが，両端は欠損する。

8号竪穴住居跡（SI08）（第21図）

位置　D・E-1・2グリットに位置し，9号竪穴住居跡，2号掘立柱建物跡に切られ，調査区外に延びている。

規模と構造　長軸5.62mを測り，方形を呈し，南壁中央に張り出し部があり貯蔵穴が認められる。深さは29.4cmを測る。主軸方向はN-3°-E。壁溝は東・西壁に認められ，幅16～20cm，深さ1～3cmを測る。間仕切り溝を3本確認し，西側は掘方の掘削後に確認した。長さ1.13～1.36m，幅15～20cm，深さ11.9～22.3cmを測る。主柱穴はP1・P2を確認した。張り出し部の貯蔵穴は9号竪穴住居跡の掘方の掘削後に確認し，長さ64，幅47，深さ35.2cmを測る。

床　中央部に硬化面が認められる。掘方は南東隅が若干掘り窪められた程度である。

カマド　確認できなかった。

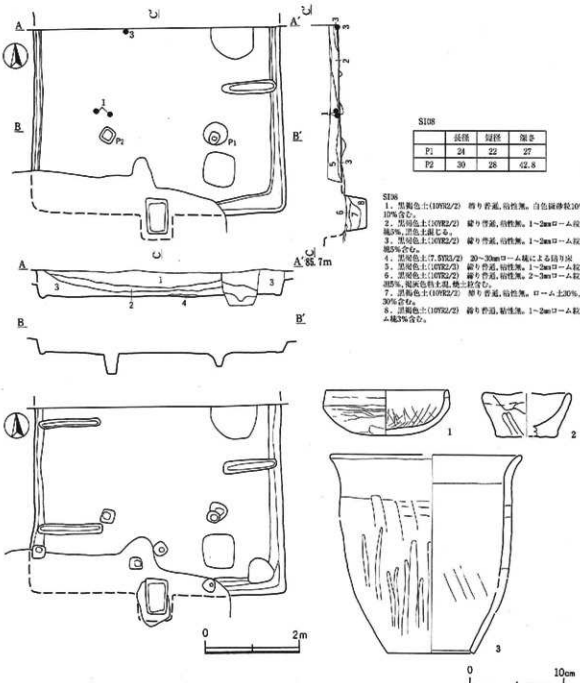
埋積土　4層に分層され，自然堆積を呈する。

遺物出土状況　調査区壁際の床面上より，甑(3)がつぶれた状態で出土した。

出土遺物　1は土師器坏で体部外面に粗い磨き，内面は細い磨きが施される。2は手づくね土器。3は甑で体部は粗い磨き，内面はナデが施される。

9号竪穴住居跡（SI09）（第22・23図）

位置　D-E-2グリットに位置し，8号竪穴住居跡を切っている。主柱穴の数と壁溝の状況から建て替え，カマドの作り替えが行われている。



第21図　8号竪穴住居跡（SI08）及び出土遺物

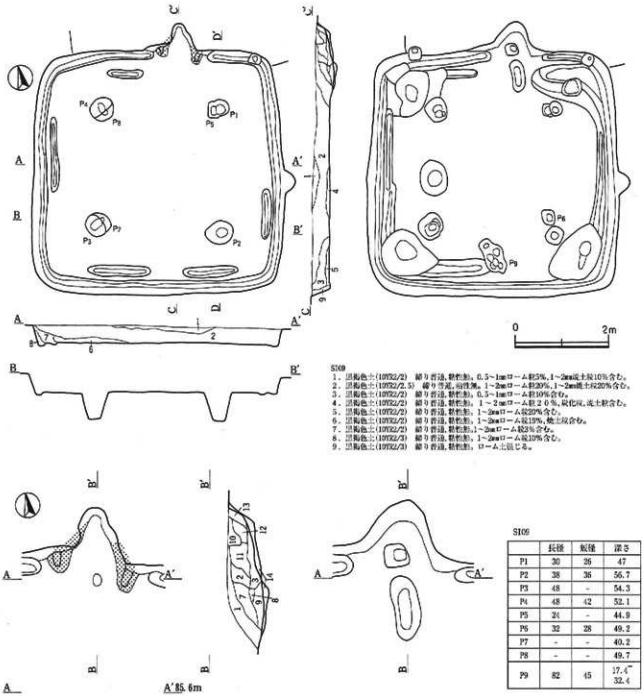
規模と構造　長軸5.4，短軸5.12mを測り，方形を呈する。深さは40.6cmである。主軸方向はN-13°-E。壁溝は全周し，幅22～32，深さ3.5～5cmである。主柱穴はP1・2・3・4が建て替え後，P5・6・7・8が建て替え前と考えられる。P9は出入り口の小穴と考えられるが複数の小穴が重複している。

床　中央部に硬化面が認められる。掘方は四隅が若干掘窪め，黒色土とローム塊を埋め戻していた。

カマド　2基確認した。遺存状況から東壁中央に設けられたものが旧カマド，北壁中央に設けられたものが新カマドと考えられる。旧カマドは煙道部の掘り込みのみを確認した。新カマドは白色粘土で作られ，8号竪穴住居跡の埋積土を掘り込んで構築されていた。

埋積土　8層に分層され自然堆積である。

遺物出土状況　埋積土中から土器片が多数確認された。



SI09

1. 黒褐色土(10YR2/2)　締り普通、粘性強。0.5～1mローム粒5%、1～2mm焼土粒10%含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2.5)　締り普通、粘性強。1～2mローム粒20%、1～2mm焼土粒20%含む。
3. 黒褐色土(10YR2/2)　締り普通、粘性強。0.5～1mローム粒10%含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2)　締り普通、粘性強。1～2mローム粒2～0%、炭化粒、焼土粒含む。
5. 黒褐色土(10YR2/2)　締り普通、粘性強。1～2mローム粒20%含む。
6. 黒褐色土(10YR2/2)　締り普通、粘性強。1～2mローム粒15%、焼土粒含む。
7. 黒褐色土(10YR2/2)　締り普通、粘性強。1～2mローム粒3%含む。
8. 黒褐色土(10YR2/3)　締り普通、粘性強。1～2mローム粒10%含む。
9. 黒褐色土(10YR2/3)　締り普通、粘性強。ローム土粒じる。

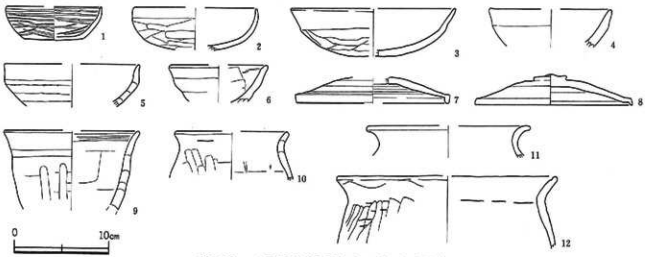
SI09

	長径	短径	深さ
P1	30	26	47
P2	38	36	56.7
P3	48	-	54.3
P4	48	42	52.1
P5	24	-	44.9
P6	32	28	49.2
P7	-	-	40.2
P8	-	-	49.7
P9	82	45	17.4 32.4

SI09カマド

1. 黒褐色土(10YR2/2)　締り普通、粘性強。1～2mローム粒5%、焼土粒3%含む。
2. 黒褐色土(10YR2/3)　締り普通、粘性強。5～25mmの赤褐粒10%、2mm焼土粒5%、黒色土粒じる。
3. 黒褐色土(10YR2/3)　締り弱い、粘性強。2～10mm焼土粒50%、3～5mmローム粒3%含む。
4. 黒褐色土(10YR2/2.5)　締り普通、粘性強。1～2mローム粒10%、焼土粒3%含む。
5. 黒褐色土(10YR2/2)　締り普通、粘性強。1～2mm焼土粒5%、ローム粒3%含む。
6. 黒褐色土(10YR2/3)　締り普通、粘性強。ローム粒5%、焼土粒3%含む。
7. 黒褐色土(10YR2/3)　締り普通、粘性強。2～3mm焼土粒5%、灰褐色粒土30%焼じる。
8. 黒褐色土(10YR2/3)　やや締まる、均質無。炭化粒土50%含む。
9. 黒褐色土(10YR2/2.5)　締り普通、均質無。2～3mm焼土粒5%、1～2mmローム粒、炭化物粒3%、5～10mmローム粒3%含む。
10. 黒褐色土(7.5YR2/2)　締り普通、粘性強。5～10mm焼土粒10%含む。
11. 黒褐色土(7.5YR2/2)　締り普通、粘性強。3～5mm焼土粒10%、3～5mm灰白粒土粒10%含む。
12. 黒褐色土(7.5YR3/2)　締り普通、粘性強。10～15mm焼土粒30%含む。
13. 黒褐色土(7.5YR2/2)　締り普通、粘性強。3～5mm焼土粒30%含む。
14. 黒褐色土(10YR2/2)　締り普通、粘性強。1～2mmローム粒30%、2～5mm焼土粒30%含む。
15. 褐灰色粘土(10YR4/1)

第22図　9号竪穴住居跡（SI09）及びカマド



第23図　9号竪穴住居跡（SI09）出土遺物

出土遺物　1・2は土師器埦，3～5は土師器坏，6は手づくね土器である。1は内外面がよく磨かれて黒色を呈する。2・3は体・底部ヘラ削り整形される。5・6は外面に粘土紐の痕跡が残る。7・8は須恵器蓋。9・10は小形甕，体部ヘラ削り整形される。11・12は土師器甕。第40図－5は鎌の先端である。

10号竪穴住居跡（SI10）（第24図）

位置　E・F-1グリットに位置し，調査区外に延びている。

規模と構造　長軸5.84mを測り，方形を呈する。南壁中央に張り出し部を持つ。深さは36.9cmである。主軸方向はN-4°-E。壁溝は東壁に認められ，幅26～28，深さ6.5cmである。間仕切り溝を3本確認し，長さ120～230，深さ7.5～8.7cmである。主柱穴はP1・2を確認した。張り出し部の貯蔵穴は長さ88，幅75，深さ33cmを測る。

床　中央部に硬化面が認められる。掘方は南西，南東隅が若干掘り込まれている。

カマド　確認できなかった。

埋積土　11層に分層され，自然堆積である。第2層は8号竪穴住居跡の3層に対応する。

遺物出土状況　確認面上より土師器甕(12)，須恵器長頸壺(13)が出土し，張り出し部の貯蔵穴の底面より土師器坏(1)と甑(9)が出土した。しかし，埋積土の下位からはほとんど出土しなかった。土師器坏が9号竪穴住居跡出土のものと接合したほか，他の遺物にも同様のものが認められる。

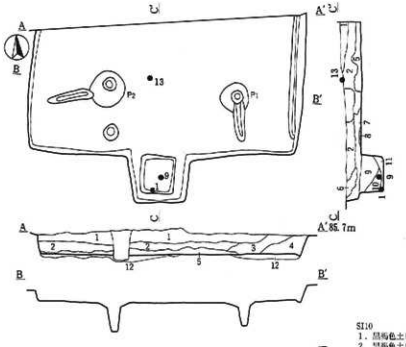
出土遺物　1～5は土師器坏，6は埦。1～4は稜を持ち，口縁部が内傾する。5・6は口縁部がほぼ直立する。2～6は体・底部ヘラ削り整形され，1～3・6は内面のミガキが残る。7・8は手づくね土器で，7の体部に指頭痕が残る。9は甑で，無底である。10・11は土師器小形甕。12は土師器甕で，外面が縦方向の削り。13は須恵器長頸壺の破片である。他に破片が出土したが復元しえなかった。

11号竪穴住居跡（SI11）（第25・26図）

位置　E-3グリットに位置する。

規模と構造　長軸4.6，短軸4.56mの方形で，深さは57.3cmを測る。主軸方向はN-6°-E。壁溝は全周し，幅28～32cm，深さ4.5～7.3cmである。主柱穴はP1・2・3・4である。

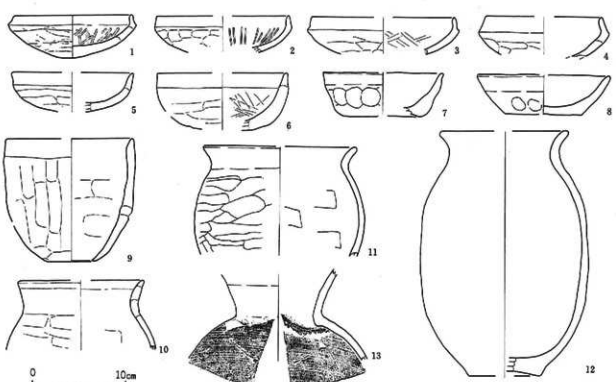
床　中央部に硬化面が認められ，砂質土とローム塊を固めて貼り床を作っていた。掘方はほとんど認められない。



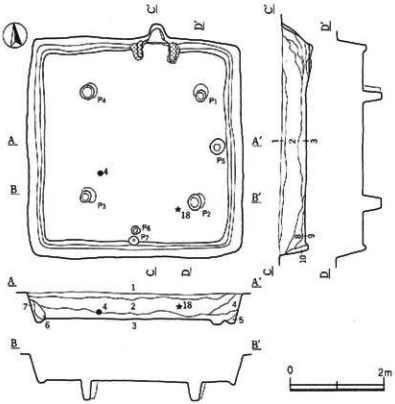
SI10

	長径	短径	深さ
P1	62	60	48.4
P2	74	70	63.6

SI10
1．黒褐色土(10YR2/2.5)　0.5～1mmローム粒3%，2～3mm焼土粒2%含む。
2．黒褐色土(10YR2/3)　やや粘る。0.5～1mmローム粒5%含む。
3．黒褐色土(10YR2/3)　0.5～1mmローム粒20%，3～4mmローム粒5%含む。
4．黒褐色土(10YR2/3)　0.5～1mmローム粒10%含む。
5．黒褐色土(10YR2/3)　縁り普通，粘性無。ローム土30%混じる。
6．黒褐色土(10YR2/3)　縁り普通，粘性無。0.5～1mmローム粒20%，2～3mmローム粒5%，黒色土混じる。
7．黒褐色土(10YR2/3)　縁り普通，粘性無。0.5～1mmローム粒10%，2～3mmローム粒3%含む。
8．黒褐色土(10YR2/3)　縁り普通，粘性無。1～2mmローム粒5%，ローム土20%混じる。
9．黒褐色土(10YR2/3)　縁り普通，粘性無。1～2mmローム粒20%，20～30mmローム粒5%，褐土粒含む。
10．黒褐色土(10YR2/2)　縁り普通，粘性無。2～3mmローム粒5%含む。
11．黒褐色土(7.5YR2/2)　縁り普通，粘性無。ローム土30%，5～10mmローム塊3%含む。
12．褐色土(10YR4/4)　10～30mmローム粒20%含む。撹乱。



第24図　10号竪穴住居跡（SI10）及び出土遺物

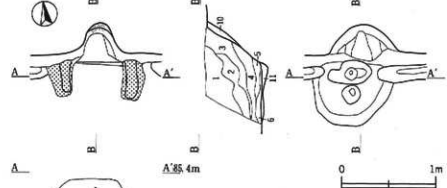


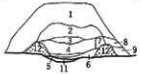
SI11

	長径	短径	深さ
P1	36	32	40.8
P2	38	32	40.6
P3	34	32	41.3
P4	36	32	45
P5	34	30	11.2
P6	18	16	25.8
P7	20	20	10

SI11

1．黒褐色土(10YR2/2)　締り普通，粘性強。0.5～1mローム粒3%，焼土粒2%含む。
2．黒褐色土(10YR2/2.5)　締り普通，粘性強。1～2mローム粒30%，10～20mローム塊5%，焼土粒3%含む。
3．黒褐色土(10YR2/2)　締り普通，粘性強。1～2mローム粒20%，10～20mローム塊5%，焼色土粒含む。
4．黒色土(10YR2/1)　締り普通，粘性無。1～2mローム粒2%，1～2m焼土粒3%，0.5～10mローム塊2%含む。
5．黒褐色土(10YR2/2)　締り普通，粘性強。ローム土30%含む。
6．黒色土(10YR2/1.5)　締り普通，粘性強。0.5～1mローム塊5%，3～5mローム塊5%含む。
7．黒褐色土(10YR2/2)　締り普通，粘性強。1～2mローム粒5%，ローム土混じる。
8．黒色土(10YR2/1)　締り普通，粘性無。1～2mローム粒3%，3～5mローム粒2%，焼色土混じる。
9．黒褐色土(10YR2/2.5)　締り普通，粘性無。1～2mローム粒20%，3～5mローム粒5%含む。
10．黒褐色土(10YR2/2)　締り普通，粘性強。20～30mローム塊，焼土混じる。

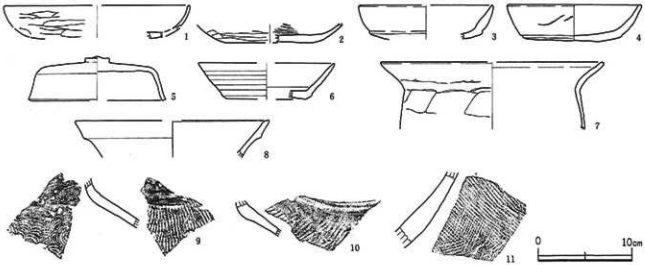




SI11カマド

1．黒褐色土(10YR2/3)　締り普通，粘性無。1～2mローム粒30%，10～15mローム粒3%，焼土粒，炭化物粒3%含む。
2．黒灰色土(10YR3/1)　締り強い，粘性有。黒褐色土10%混じる。
3．褐色粘土(7.5YR4/3)　締り強い，粘性有。
4．暗褐色土(10YR3/3)　締り強い，粘性無。2～3mローム粒5%含む。
5．暗褐色土(10YR3/3)　締り強い，粘性無。1～2m焼土粒50%，炭色土混じる。
6．黒褐色土(10YR2/3)　締り強い，粘性無。3～4mローム粒20%，褐色粘土粒30%含む。
7．黒褐色土(10YR2/3)　締り強い，粘性無。ローム粒30%，3～5m焼土粒混じる。
8．黒褐色土(10YR2/3)　締り普通，粘性無。2～3mm焼土粒10%，1～2mローム粒5%含む。
9．黒褐色土(10YR2/3)　締り普通，粘性無。褐灰色粘土塊混じる。
10．暗褐色土(10YR3/3)　締り普通，粘性無。
11．黒褐色土(10YR2/3)　締り普通，粘性無。2～3mローム粒，炭化灰含む。
12．灰褐色粘土(7.5YR4/2)

第25図　11号竪穴住居跡（SI11）及びカマド



第26図　11号竪穴住居跡（SI11）出土遺物

カマド　北壁中央に設けられている。煙道はU字状に掘り込み，袖は褐灰色粘土で作られる。煙道部は植物繊維が入った粘土を地山に張り付けている。火床はローム層を掘り込み，褐灰色土を埋めて作られている。火床は認められず，支脚穴と考えられる小穴が中央に認められる。燃焼部の壁面はローム層がじかに焼けている。

埋積土　10層に分層され，自然堆積である。

遺物出土状況　遺物の出土量は少ない。竪穴住居跡中央西寄りから土師器坏（4），南東寄り何れも埋積土中層から鉄製品(16)が出土した。

出土遺物　1～4は土師器坏で1・2は半球形を呈し，3・4は体部に稜を持っている。5は須恵器蓋，小片が接合して，約半分の個体となった。6は須恵器坏で，ロクロ目が明瞭に残る。7は土師器甕，8～11は須恵器甕である。第40図16は鏃の破片と推測される。19は刀子の茎の部分か。

12号竪穴住居跡（SI12）（第27・28図）

位置　調査区の北西，F-1・2グリットに位置し，西側が調査区外に延びている。

規模と構造　長軸3.5，短軸推定3.3mの方形で，深さは45.3cmを測る。主軸方向はN-19°-E。主柱穴は認められなかった。

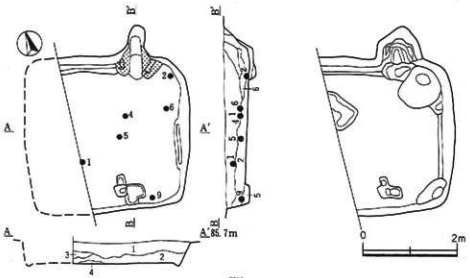
床　中央部に硬化面が認められる。掘方は北東隅と南東隅が若干掘窪められている。

カマド　北壁やや東寄りに設けられている。煙道を凸形に掘り込み，両袖は褐灰色粘土で作られていた。火床はローム層を掘り下げ，ローム塊を含む黒褐色土で埋めて作られていた。

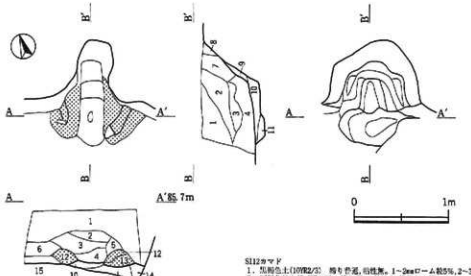
埋積土　5層に分層され，自然堆積を呈する。

遺物出土状況　埋積土中より多量の礫が出土したほか，土師器坏（2）や，須恵器蓋（6）が出土している。

出土遺物　1～3は土師器坏，4・5は手づくね土器，6は須恵器蓋，7は土師器小形甕，8は須恵器壺，9は円筒土器か。1・2は体部に稜を持ち，1は平底，2は丸底を呈する。1は内面がよく磨かれている。3～5は紛れ込みか。6は焼成段階で高温により器面が弾けており，若干いびつである。8は外面に自然降灰が付着する。9は口縁部がナデ調整されるが体部に粘土紐の痕跡を残している。



SI12
1. 黒褐色土(10YR2/2.5)　締り普通、粘性無。0.5~1mmローム粒20%、3~5mmローム塊、炭土粒、炭化物粒5%含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2)　締り普通、粘性強。1~2mmローム粒25%、5~15mmローム塊・焼土粒・炭化物粒10%含む。
3. 黒褐色土(10YR2/3)　締り普通、粘性強。褐灰色粘土塊、焼土粒5%含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3)　1~2mmローム粒30%、5~10mmローム塊5%含む。
5. 黒褐色土(10YR2/3)　締り普通、粘性強。1~2mmローム粒5%含む。
6. 黒褐色土(10YR2/3)　締り普通、粘性強。20~25mm褐灰色粘土塊40%含む。



SI12カマド
1. 黒褐色土(10YR2/2)　締り普通、粘性無。1~2mmローム粒5%、2~3mm褐灰色粘土粒10%含む。
2. 褐灰色粘土(7.5YR4/2)　締り弱い、粘性有。黒褐色土混じる。
3. 黒褐色土(10YR2/3)　締り普通、粘性無。2~3mm灰色粘土粒10%、20~30mm褐灰色粘土塊50%含む。
4. 黒褐色土(10YR2/3)　締り普通、粘性無。1~2mmローム粒5%、2~3mm粘土粒20%含む。
5. 黒褐色土(10YR2/3)　締り普通、粘性強。1~2mmローム粒5%、焼土粒、炭化物粒10%含む。
6. 黒褐色土(10YR2/3)　締り普通、粘性強。1~2mm焼土粒10%、ローム粒3%含む。
7. 黒褐色土(7.5YR2/3)　締り弱い、粘性強。3~5mm焼土粒10%、黒色土混じる。
8. 黒褐色土(10YR2/3)　締り普通、粘性強。焼土粒3%含む。
9. 黒褐色土(10YR2/3)　締り弱い、粘性強。30mmローム塊混じる。
10. 灰黄褐色土(10YR4/2)　締り普通、粘性無。2~3mm焼土粒20%含む。
11. 黒褐色土(10YR2/2)　締り普通、粘性強。2~3mmローム粒10%、5~20mmローム塊5%含む。
12. 褐灰色粘土(7.5YR4/1)　やや硬まる。
13. 褐灰色粘土(10YR4/1)　やや硬まる。5~15mmローム塊5%含む。
14. 黒褐色土(10YR2/2)　締り弱い、粘性無。2~3mmローム粒20%、5~8mmローム塊5%含む。
15. 黒褐色土(10YR2/2)　締り普通、粘性無。2~3mmローム粒30%、5~10mmローム塊5%含む。

第27図　12号竪穴住居跡（SI12）及びカマド

第28図　12号竪穴住居跡（SI12）出土遺物

13号竪穴住居跡（SI13）（第29～31図）

位置　調査区の西端，F-2･3グリットに位置し，14号竪穴住居跡，3号掘立柱建物跡に切られている。主柱穴と壁溝から建て替えが行われていると考えられる。

規模と構造　長軸4.6，短軸4.3mの方形で，深さは67.5cmを測る。主軸方向はN-3°-W。壁溝は全周し，幅20～30，深さ2.3～6.7cmである。主柱穴はP1・2・3・4である。東列が建て替え前後の２本が認められるが，西列ではそれが認められない。

床　中央部に硬化面が認められる。掘方は四隅が若干掘り込まれている。

カマド　北壁中央に設けられている。壁を凸形に掘り込み，袖は右袖のみが遺存し，粘土で作られている。火床は床面とほぼ同じ高さである。掘方は燃焼部の壁面に段を持ち，ここより天井部が構築されていたものと考えられる。燃焼部の壁面はローム層がじかに焼け赤化していた。煙道部はほぼ垂直に立ち上がっている。掘方の底面に支脚穴は確認できたが，支脚は遺存していなかった。

埋積土　埋戻しと考えられる。

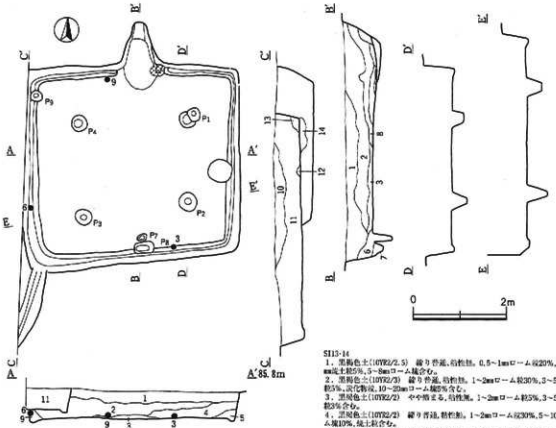
遺物出土状況　南壁際中央付近より須恵器坏(3)，西壁際より蓋(6)が出土し，いずれも床面付近の埋積土中から出土した。

出土遺物　1・2は土師器坏，3～5は須恵器坏，6は須恵器蓋，7は土師器小形甕，8～11は甕，12は土師器甑，13・14は須恵器甕。1は体部に稜を持ち口縁部がほぼ直立する，流れ込みの可能性がある。3～4の須恵器坏の底部はヘラ削り整形が行われている。8・11は薄手のつくりをした甕である。10は常総型の甕。12は底部中央に穿孔されている。13は内面にロクロナデの痕跡が明瞭に残る。14は外面が平行タタキで，緑黄色の自然降灰が付着する。第40図－3は刀子で，刃部と茎を欠損する。

14号竪穴住居跡（SI14）（第29図）

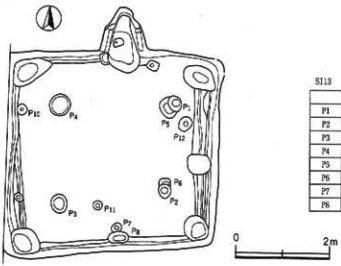
位置　調査区の西端に位置し，13号竪穴住居跡を切っていると考えられるが，そのほとんどが調査区外のため，出土遺物も検出されなかった。

規模と構造　東壁の壁溝を確認したのみである。幅30，深さ４cmを測る。



SI13-14

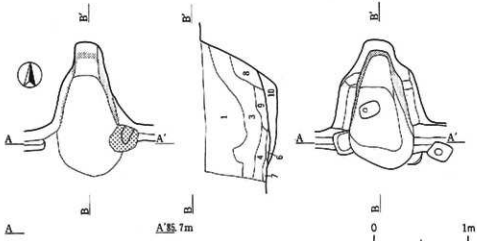
1．黒褐色土(10YR2/2.5)　縞り普通,粘性強。0.5～1mmローム粒20%,2～2.5mm焼土粒5%,5～8mmローム混含む。
2．黒褐色土(10YR2/3)　縞り普通,粘性強。1～2mmローム粒30%,3～5mm焼土粒5%,炭化物微,10～20mmローム塊5%含む。
3．黒褐色土(10YR2/2)　やや縞まる,粘性無。1～2mmローム粒5%,3～5mm焼土粒3%含む。
4．黒褐色土(10YR2/2)　縞り普通,粘性無。1～2mmローム粒30%,5～10mmローム塊10%,焼土粒含む。
5．黒褐色土(10YR2/2)　縞り普通,粘性無。1～2mmローム粒5%,3～5mmローム粒3%含む。
6．黒褐色土(10YR2/2.5)　縞り普通,粘性無。1～2mmローム粒10%,2～3mm焼土粒5%含む。
7．黒褐色土(10YR2/2)　縞り普通,粘性無。ローム土50%含む。
8．黒褐色土(10YR2/3)　縞り弱い,粘性無。灰褐色粘土50%,1～2mmローム粒5%含む。
9．黒褐色土(10YR2/2)　やや縞まる,粘性無。1～2mmローム粒5%,焼土粒・炭化物粒3%含む。
10．黒褐色土(10YR2/2)　縞り普通,粘性無。0.5～1mmローム粒5%,3～5mm焼土粒3%含む。
11．黒褐色土(10YR2/3)　縞り普通,粘性強。1～2mmローム粒25%,10～20mmローム塊5%含む。
12．黒褐色土(10YR2/3)　縞り普通,粘性無。2～3mm焼土粒30%,炭化物粒含む。
13．黒褐色土(10YR2/3)　縞り普通,粘性強。1～2mmローム粒10%,10～15mmローム塊5%,黒色土塊含む。
14．黒褐色土(10YR2/3)　縞り普通,粘性無。2～3mmローム粒10%,20～40mmローム塊50%含む。



SI13

	長径	短径	深さ
P1	30	24	36.2
P2	30	28	31.1
P3	38	34	42.6
P4	34	34	40.7
P5	44	-	23.9
P6	24	-	26.1
P7	24	16	22.8
P8	44	24	22.9

第29図　13・14号竪穴住居跡（SI13・14）



第30図　13号竪穴住居跡（SI13）カマド

床　一部確認したが，壁際のため硬化面は認められなかった。

カマド　確認できなかった。

埋積土　自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　無

出土遺物　なし

2．掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（SB01）（第32図）

位置　D・E-3グリット。P2が1号溝に切られていた。

規模と構造　2間×2間の南北棟で，主軸方向はN-3°-W。桁行5.4m，梁行4.6mの側柱式の建物である。中央の桁行が外側の桁行に比べ0.4m長く，棟持ち柱的意味を持つものと考えられる。また，梁行も北側が南側に比べて2mほど長く全体的に台形状を呈している。

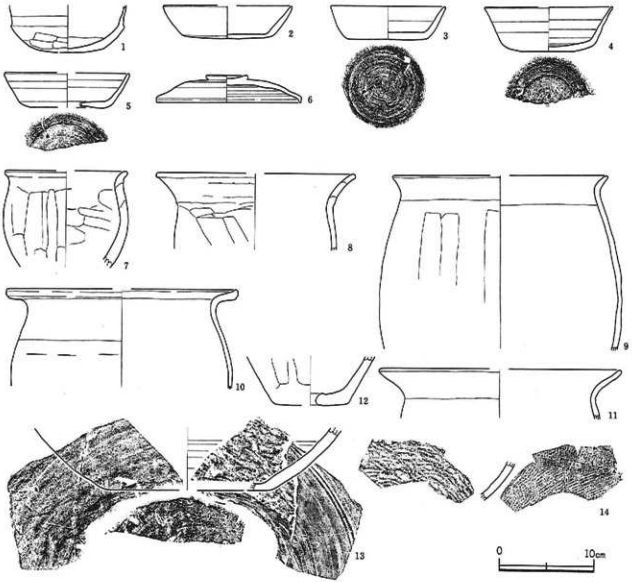
出土遺物　1・2は土師器坏，3・4は手づくね土器。いずれも小片で柱掘方の埋積土中の流れ込みと考えられる。

2号掘立柱建物跡（SB02）（第33図）

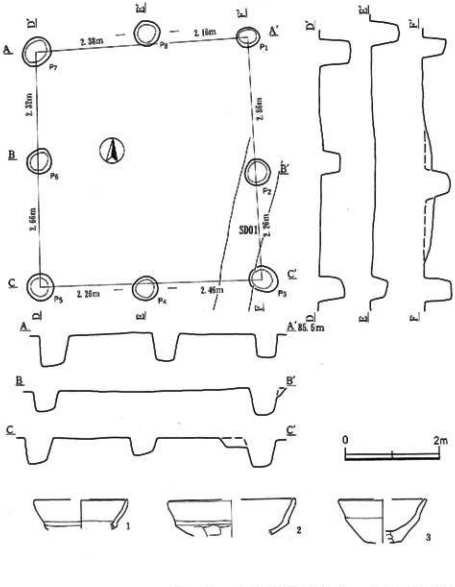
位置　D-1・2グリット。7・8号竪穴住居跡を切っている。

規模と構造　1間以上×2間？の南北棟で，主軸方向はN-11°-E。桁行2.9m，梁行7.08mの側柱式の建物と考えられる。柱掘方の平面形はそれぞれ円形，方形，長方形とばらつきがあるが，掘方はいずれも二段に掘り込まれ，柱当たりが明瞭に残る。梁行は1間のみの確認であったが，桁行から考えれば，その長さは2倍となり，この付近を通る1号溝によって切られたことによって，確認できなかったものと考えられる。

出土遺物　認められなかった。



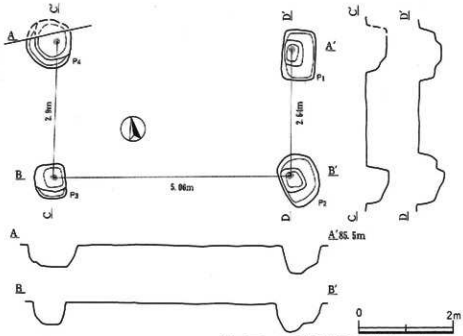
第31図　13号竪穴住居跡（SI13）出土遺物



SB01

	長径	短径	深さ
P1	50	43	51.6
P2	56	54	59
P3	64	50	56.8
P4	56	50	38.4
P5	60	38	36.9
P6	54	52	43.1
P7	68	56	65.8
P8	52	56	62.6

第32図　1号掘立柱建物跡（SB01）及び出土遺物



SB02

	長径	短径	深さ
P1	106	70	58.8
P2	106	84	66.2
P3	70	66	54.8
P4	100	100	48

第33図　2号掘立柱建物跡（SB02）

3号掘立柱建物跡（SB03）（第34図）

位置　F-2・3グリット。13号竪穴住居跡を切っている。

規模と構造　3間？×2間の南北棟で，主軸方向はN-8°-E。桁行6.6m，梁行4.5mの側柱式の建物と考えられる。梁行の北から2列目の柱掘方を欠いているために，桁行が本来3間の距離があるところ2間しか確認できなかった。また，梁行の南から2列目にP9が存在することから，側柱式の建物であるか，総柱式になるのか，建物構造も不明である。

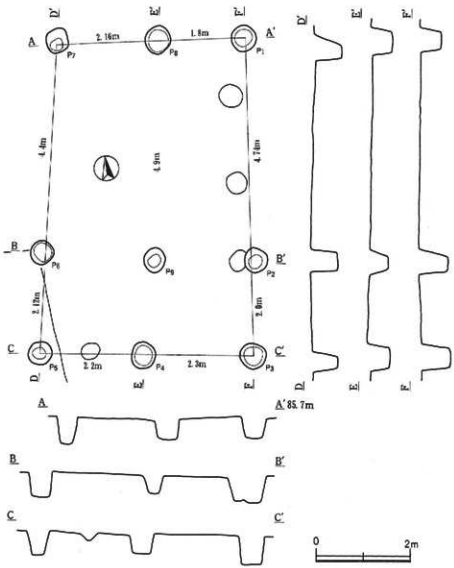
出土遺物　認められなかった。

3．円形周溝遺構

1号円形周溝遺構（SX01）（第35図）

位置　B・C-4グリット。

規模と構造　検出した溝の長さは13.8mで，周溝の直径は3.6～4mの楕円形と推測される。溝の幅は40～46



SB03

	長径	短径	深さ
P1	52	50	48.5
P2	50	50	56.4
P3	54	52	60.2
P4	56	52	45.2
P5	50	48	-
P6	48	48	37.6
P7	50	46	37.9
P8	60	54	42
P9	48	48	35.5

第34図　3号掘立柱建物跡（SB03）

cm，深さ10cm，断面逆台形を呈する。

出土遺物　1は土師器坏。口縁部がやや内傾し，内面に磨きが施される。

2号円形周溝遺構（SX02）（第35図）

位置　B・C-4グリット。1号円形周溝遺構の内側に位置する。

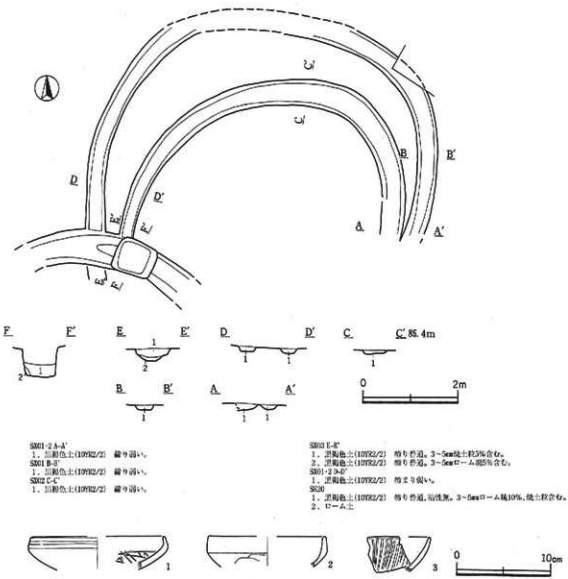
規模と構造　検出した溝の長さは10.2mで，周溝の直径は3～3.4mと推測される。溝の幅は28～60cm，深さ12cm，断面逆台形を呈する。

出土遺物　認められなかった。

3号円形周溝遺構（SX03）（第35図）

位置　C-4グリット。1・2号円形周溝遺構，20号土坑と重複する。

規模と構造　検出した溝の長さは3.8mで，周溝の直径は3.2mと推測される。溝の幅は62cm，深さ16cm，断



第35図　1・2・3号円形周溝遺構（SX01・02・03）及び出土遺物

面逆台形を呈する。

出土遺物　2，3は土師器坏。2は口縁部がやや内傾し，漆仕上げ，3は内面に放射状のミガキが施される。

4．土坑

2号土坑（SK02）（第36図）

A-2グリットに位置する。1号竪穴住居跡を切っている。長径1.16，短径1.12mの円形で深さは38cmである。埋積土は黒褐色土の単一層で，自然堆積と考えられる。

3号土坑（SK03）（第36図）

A-2グリットに位置する。長径0.74，短径0.72mの円形で深さは36cmである。埋積土は黒褐色土の単一層で，自然堆積と考えられる。遺物は土師器坏の破片が出土しているが，1号竪穴住居跡からの流れ込みと推察される。

4号土坑（SK04）（第36図）

B-1グリットに位置する。長径1.52，短径1.44mの円形で深さは51cmである。埋積土は4層に分層されるが自然堆積と考えられる。黒色土層から掘り込まれているのが確認された。底面はローム層を掘り込み平坦である。

5号土坑（SK05）（第36図）

B-2グリットに位置し，3号竪穴住居跡を切っている。長径1.52，短径1.5mの円形で深さは38cmである。埋積土は2層に分層されるが自然堆積と考えられる。遺物は土師器坏(4)で底部糸切り，内面黒色処理される。

6号土坑（SK06）（第38図）

A-2グリットに位置し，1号井戸に切られている。推定径1.4mの円形と推測され，深さは123cmである。埋積土は6層に分層され，自然堆積と考えられる。

7号土坑（SK07）（第36図）

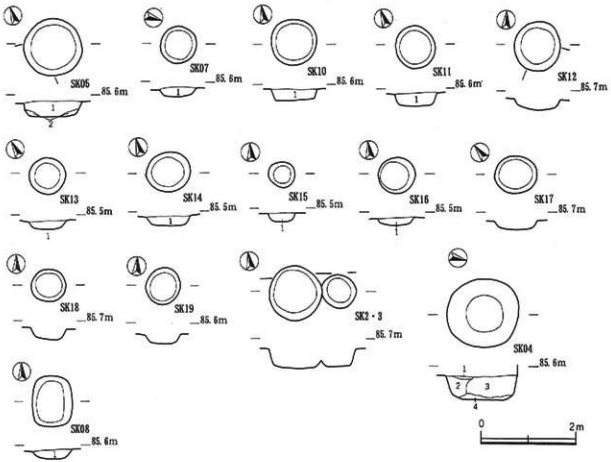
B-3グリットに位置する。長径0.8，短径0.76mの円形で，深さは25cmである。埋積土は黒褐色土の単層で，自然堆積と考えられる。

8号土坑（SK08）（第36図）

A-3グリットに位置する。長径1.08，短径0.82mの楕円形で，深さは18cmである。埋積土は黒褐色土の単層で，自然堆積と考えられる。遺物は土師器坏，甕の破片が出土したが実測し得ない。

10号土坑（SK10）（第36図）

B-2グリットに位置する。3号竪穴住居跡を切っている。長径0.96，短径0.96mの円形で，深さは26cmである。埋積土は黒褐色土の単層で，自然堆積である。遺物は土師器坏，手づくね土器の破片が出土した。



SK04
1．黒褐色土(10YR2/3)　粗り普通，粘性強。0.5～1mローム粒10%含む。
2．黒褐色土(10YR2/2.5)　粗り普通，粘性無。2～3mローム粒25%，3～10mローム塊10%含む。
3．黒褐色土(10YR2/3)　粗り普通，粘性強。1～2mローム粒20%，10～30mローム塊30%，黒色土混じる。
4．黒褐色土(10YR2/2)　やや粗まる，粘性有。

SK05
1．黒褐色土(10YR2/3)　粗り普通，粘性強。0.5～1mローム粒20%，1～2m焼土粒5%，炭化物微含む。
2．黒褐色土(10YR2/3)　粗り普通，粘性強。3～5mローム土30%含む。

SK07
1．黒褐色土(10YR2/3)　やや粗まる，粘性無。2～3m焼土粒10%，炭化物粒，ローム粒3%含む。

SK08
1．黒褐色土(10YR2/3)　やや粗まる，粘性無。2～3m焼土粒20%，炭化物粒5%含む。

SK13
1．黒褐色土(10YR2/3)　1～2mローム粒10%含む。

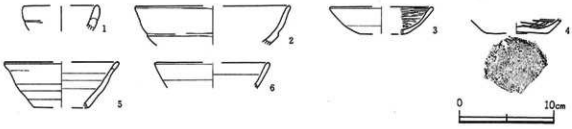
SK10
1．黒褐色土(10YR2/3)　粗り普通，粘性強。0.5～1mローム粒10%，焼土粒10%含む。

SK11
1．黒褐色土(10YR2/3)　粗り普通，粘性強。ローム粒10%，焼土粒・炭化物粒3%含む。

SK14
1．黒褐色土(10YR2/3)　1～2mローム粒5%含む。

SK15
1．黒褐色土(10YR2/3)　1～2mローム粒5%含む。

SK16
1．黒褐色土(10YR2/3)　1～2mローム粒10%含む。



第36図　土坑及び出土遺物

11号土坑（SK11）（第36図）

A-2グリットに位置する。長径0.92，短径0.86mの円形で，深さは26cmである。埋積土は黒褐色土の単層で，自然堆積と考えられる。土師器坏，甕，須恵器坏，甕の細片が出土した。常総形甕の破片を含む。

12号土坑（SK12）（第36図）

A-2グリットに位置し，1号竪穴住居跡を切っている。長径1.04，短径0.96mの円形で，深さは25cmである。埋積土は黒褐色土の単層で，自然堆積と考えられる。

13号土坑（SK13）（第36図）

C-1グリットに位置する。長径0.8，短径0.78mの円形で，深さ17cmである。埋積土は黒褐色土の単層で，自然堆積と考えられる。

14号土坑（SK14）（第36図）

C-1グリットに位置する。長径0.94，短径0.84mの円形で，深さ21cmである。埋積土は黒褐色土の単層で，自然堆積と考えられる。

15号土坑（SK15）（第36図）

C-1グリットに位置する。長径0.58，短径0.56mの円形で，深さは17.8cmである。埋積土は黒褐色土の単層で，自然堆積と考えられる。

16号土坑（SK16）（第36図）

C-1グリットに位置する。長径0.8，短径0.76mの円形で，深さは12.8cmである。埋積土は黒褐色土の単層で，自然堆積と考えられる。

17号土坑（SK17）（第36図）

E-2グリットに位置する。長径0.9，短径0.8mの円形で，深さは19cmである。埋積土は黒褐色土の単層で，自然堆積と考えられる。

18号土坑（SK18）（第36図）

F-2グリットに位置する。長径0.72，短径0.68mの円形で，深さは21.6cmである。埋積土は黒褐色土の単層で，自然堆積と考えられる。

19号土坑（SK19）（第36図）

F-3グリットに位置する。長径0.8，短径0.74mの円形で，深さは19cmである。埋積土は黒褐色土の単層で，自然堆積と考えられる。

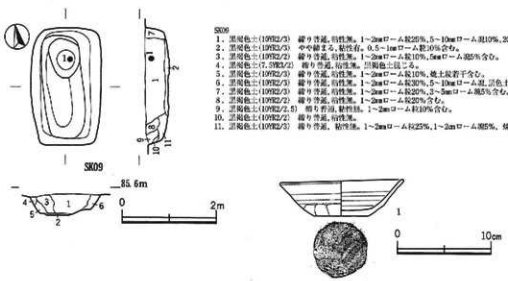
20号土坑（SK20）（第36図）

C-4グリットに位置し，3号円形周溝遺構と重複している。長径0.85，短径0.72mの方形で，深さは66cmである。

9号土坑（SK09）（第37図）

E-3グリットに位置する。長径2.46，短径1.48mの長方形で，深さは48cmである。主軸方向はN-12°-E。埋積土はローム塊が混入した黒色土によって埋め戻されている。底面には長径に沿って掘り込みが認められる。遺物は須恵器坏(1)の完形品が1点，中央やや北寄りの埋積土中位より出土した。以上の状況から考えて，本土坑は土壙墓と考えられる。

出土遺物　1は須恵器坏で，体部下半の横のヘラ削りと底部を多方向よりヘラ削りされる。器形・胎土の特徴から三和窯跡の製品と考えらる。



第37図　9号土坑（SK09）及び出土遺物

5．井戸跡

1号井戸（SE01）（第38図）

A-2グリットに位置し，6号土坑を切っている。長径2.2，短径2mの円形と考えられ，確認面から1.4mのところからは隅丸方形を呈する素掘りの井戸である。深さは確認面より2mまでを確認した。埋積土は黒褐色土を主体とする自然堆積で6層に分層した。遺物は土師器坏，須恵器などの破片が出土した。

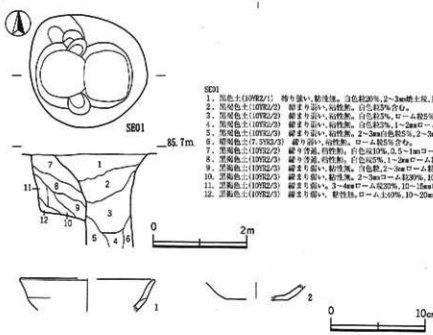
出土遺物　1は土師器坏，2は須恵器坏。1は口縁部ヨコナデ，体部に粘土紐の痕跡，内面漆遺存。

6．溝跡

1号溝（SD01）（第39図）

D-1～4グリットに位置し，調査区の中央をほぼ南北に通っている。7号竪穴住居跡，1号掘立柱建物跡を切っている。全長25.6mを確認し，幅65～75cmを測る。主軸方向はN-11°-E。深さは11.4～21.9cmである。埋積土は黒褐色土の単層で，自然堆積と考えられる。遺物は土師器，須恵器の細片が出土しいずれも流れ込みである。

出土遺物　1は須恵器壺。ロクロ整形。



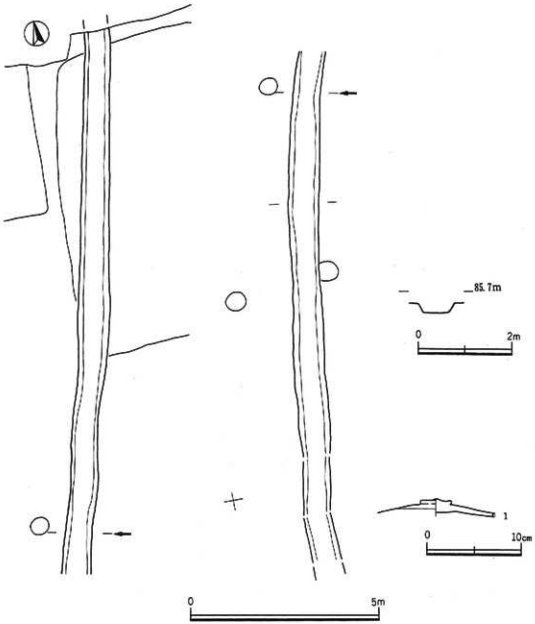
第38図　1号井戸（SE01）及び出土遺物

7．小穴

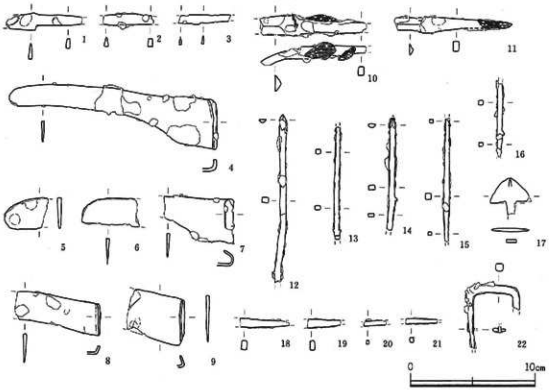
調査区全体で総数66個の小穴を検出した。小穴は堆積土や掘方の深度などから掘立柱建物跡の柱掘方などが含まれていると考えられるが，現地調査では掘立柱建物跡を検出できなかったため，一覧表に示す。

第1表　調査区内小穴一覧

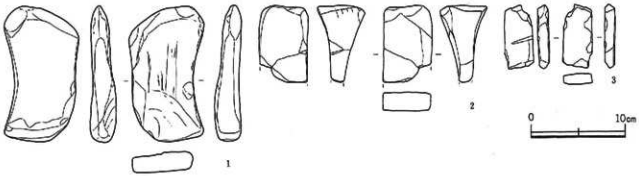
	グリット	長径	短径	深さ	備考		グリット	長径	短径	深さ	備考		グリット	長径	短径	深さ	備考
P1	B-2	57	51	71.2		P25	E-2	47	45	49.6		P49	C-3	42	37	20	
P2	B-2	47	46	78.9		P26	F-2				SB03-P1	P50	C-3	42	40	31.6	
P3	B-2	65	-	53.6		P27	F-2	48	48	37.5		P51	C-3	38	35	21.3	
P4	B-2	49	40	118.3		P28	F-2				SB03-P8	P52	B-3	56	55	49.9	
P5	E-1	50	-	72.6		P29	F-2				SB03-P7	P53	B-3	38	35	45.5	
P6	B-2	51	48	63.8		P30	F-2	38	34	45.3		P54	B-3	52	45	31.7	
P7	B-3	51	50	95.7		P31	F-2	42	36	33.3		P55	E-2	68	56	49	
P8	B-2	35	32	25.1		P32	E-2	50	44	48.5		P56	E-2	44	40	55.1	
P9	B-3	81	52	86.4		P33	F-2				SB03-P2	P57	E-1	35	-	52.4	P57>SE10
P10	B-3	41	36	78.8		P34	F-3	43	38	41.8		P58	F-2	32	31	34.2	
P11	B-3	33	46	41.2		P35	C-3	43	37	24.3		P59	E-2	38	33	53.3	
P12	B-3	68	55	54.4		P36	B-1	50	42	18.4		P60	E-2	34	25	13.6	
P13	A-3	60	30	80.5		P37	B-2	38	36	123.7	SB03>P37	P61	E-2	60	60	42.2	
P14	A-3	40	40	86.4		P38	B-2	37	30	119	SB03>P38	P62	F-2	45	45	34.5	
P15	A-4	34	30	50.1		P39	A-3	40	38	38.5		P63	F-2	48	35	50.9	
P16	B-3	33	28	34.6		P40	A-3	30	30	9.7		P64	F-3	28	26	35.5	
P17	B-3	35	28	38.1		P41	A-3	38	33	20.3		P65	F-3	36	34	20.1	
P18	E-1	44	28	57.4		P42	B-3	56	47	17.8		P66	F-3	26	24	30.2	
P19	E-2	45	42	41.3		P43	B-3	53	46	15.7		P67	F-4	33	30	20.9	
P20	E-2	35	31	30.2		P44	B-3	45	35	19.1		P68	F-4	27	25	21.1	
P21	E-2	42	40	39.2		P45	C-1	54	48	28		P69	F-4	52	48	51.8	
P22	E-2	50	44	46.8		P46	C-1	50	-	46		P70	F-4	27	27	14.3	
P23	F-2				SK18に変更	P47	C-2	47	40	43.9		P71	F-2	36	38	19	
P24	E-2	28	26	50.8		P48	C-3	44	38	25.6							



第39図　1号溝（SD01）及び出土遺物



第40図　出土鉄製品



第41図　出土砥石

第2表　出土遺物観察表

第1号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	-			密・赤褐色粒	橙5YR7/6～にぶい橙7.5YR7/3	良	口縁部ヨコナデ	覆土中	
2	土師器	鉢	-				浅黄橙10YR8/4～橙5YR7/6	普通	ヨコナデ	覆土中	
3	須恵器	坏	12.5	4.7	6.3	細砂粒	褐 灰10YR5/1～10YR4/1	良	底部赤切り、粘土紐の痕跡	南壁際床面	体部外面に「木」墨書
4	須恵器	坏			(7.8)	やや粗い、粗砂粒	褐灰7.5YR4/1～暗赤褐5YR3/3	良	ロクロ整形、底部赤切り	覆土中	
5	須恵器	坏			(9.4)	礫わずかに含む	灰白7.5YR8/1	良	ロクロ整形。体部下端と底部を回転ヘラ削り整形。	覆土中	
6	須恵器	甕	-				黒色粒・良	灰白5/0	良	外面タタキ痕、のちロクロ整形	覆土中	
7	土師器	甕	(17.0)	[9.2]		礫を含み粗い	浅黄橙7.5YR8/3～灰白7.5YR8/1	二次焼熱を受ける	口縁部ヨコナデ、体部横のヘラ削り。内面ヨコのヘラナデ	覆土中	
8	土師器	甕		[9.4]	(5.1)	石英粒・礫含み粗い・密	灰白10YR7/1	二次焼熱を受ける	体部縦のヘラ削り、下端横のヘラ削り。内面ナデ	覆土中	
9	須恵器	甕		-		礫を微かに含み粗い	灰白2.5YR7/1	やや甘い	外面平行タタキ、3条の平行する線状工具によるケズリ、内面ナデ	覆土中	
10	須恵器	甕		[9.3]	(15.2)	微砂粒・良	暗灰N3/0	良好	外面平行タタキ、内面ヘラナデ	南壁際覆土中	底部がよく焼けて平、内面鉄錆

第2号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏			[8.2]	細砂粒、やや粗い	にぶい橙7.5YR7/3～にぶい黄橙10YR6/4	やや甘い	ロクロ整形、体部下端と底部ヘラ削り。内面ミガキ、黒色処理。	覆土中	
2	須恵器	坏			[8.0]	良	黄灰2.5Y5/1	良	ロクロ整形、底部外周回転ヘラ削り。	覆土中	
3	須恵器	蓋	(17.3)	[2.3]		密、礫赤褐5Y3/2	明灰N7/0	良	ロクロ整形	覆土中	
4	須恵器	高台付坏	(14.5)	5.2	[8.6]	3～3mm程を低かに含む、微砂粒	暗灰N5/0～N4/1	良	ロクロ整形、付け高台。内底面に平滑なロクロ痕が残るが磨れている。	覆土上位	

第3号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	10.6	[4.8]		微砂粒・赤褐色粒	浅黄橙10YR8/4	普通	底部より丸く立ち上がり、口縁部は直立して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り。内面円形の痕跡。外面に黒煤。	覆土中	
2	土師器	坏	(13.8)	[3.6]		赤褐色土混じる。	にぶい橙7.5YR6/4	普通	体部は球状を呈し、口縁部は直立して立ち上がる。内面ナデ、黒処理。	覆土中	
3	土師器	坏	(13.0)	4.3		密・赤褐色粒	浅黄橙7.5YR8/3	良	半球形状の器形を呈し、口縁部は直立して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り。内面ナデ、外面に黒煤。口縁部に墨書等。	カマド南側床面	
4	土師器	坏	(12.7)	[3.5]		赤褐色粒	浅黄橙7.5YR8/3	良	球状に立ち上がり、口縁部はやや内湾する。口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り。内面ナデ、内・外面黒処理。	覆土中	
5	土師器	坏	(13.8)	4.1		密	にぶい橙7.5YR6/3	良	半球形状を呈し、口縁部は直線的に立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り。内面ナデ、黒処理。	覆土中	
6	土師器	坏	(16.2)	4.3		微砂粒	浅黄橙10YR8/3	良	半球形状を呈し、口縁部は短く立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り。内面ナデ、黒処理。	覆土中	
7	土師器	坏	(13.8)	4.9		微砂粒	浅黄橙10YR8/3	良	底部は平らで、底部から湾曲しながら立ち上がり、体部から口縁部にかけては外傾する。口縁部は内側が玉縁状となる。体・底部ヘラ削り、内面ナデ、黒化上げ。	覆土中	
8	土師器	坏	(15.5)	3.9		密	にぶい橙7.5YR6/4	良	体部に稜を持ち、口縁部は外反して立ち上がり、底部は丸底。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面ナデ、黒処理。	覆土中	
9	土師器	坏	(15.6)	[3.8]		微砂粒	浅黄橙10YR8/3	良	体部に稜を持ち、口縁部は外反して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り。内面ナデ。	覆土中	
10	土師器	坏	(15.9)	[4.2]		石英、赤褐色粒	にぶい黄橙10YR7/2	やや甘い	体部に稜を持ち、口縁部は内湾して立ち上がり、底部は丸底。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面黒処理。	カマド南側床面	
11	須恵器	蓋		[2.3]		微砂粒	灰白2.5Y7/1～浅黄2.5Y8/3	良	ロクロ整形、甲の中心を回転ヘラ削り。	覆土中	
12	須恵器	蓋	(15.6)	3.2		微砂粒	灰白2.5Y7/1	良	ロクロ整形、甲の中心を回転ヘラ削り。	覆土上中	
13	須恵器	蓋	(16.4)	[4.3]		3～4mm際	灰白2.5Y8/1	やや甘い	ロクロ整形、甲の中心を回転ヘラ削り。	覆土上中	
14	須恵器	坏	(17.6)	3.2		赤褐色	N5/0	良好	ロクロ整形	覆土上中	
15	土師器	甕	(22.4)	[9.8]		雲母・赤褐色粒・粗砂粒	橙7.5YR7/6	二次焼熱	口縁部は大きく「く」字に曲がり、胴部は長胴を呈する。口縁部ヨコナデ、体部横のヘラ削り。内面斜めのヘラナデ。	覆土中	
16	土師器	甕		[7.4]	(4.8)	金雲母・粗砂粒	明赤褐5YR5/6	二次焼熱	体部粗い造り、内面ヨコのヘラナデ。	覆土中	
17	土師器	甕	(22.3)	[14.6]		雲母・細砂粒多く粗い	赤褐5YR4/6	二次焼熱	口縁部は外反して立ち上がり、胴部は長胴を呈する。口縁部ヨコナデ、体部縦のヘラ削り、内面ヨコのヘラナデ。	覆土中	
18	土師器	甕		[3.7]	6.4	赤褐色粒・粗砂粒微い	明赤褐5YR5/6～にぶい黄橙10YR6/4	二次焼熱	底部は平底で、体部は球形を呈する。体部縦のヘラ削り、下端横のヘラ削り。底部木葉痕。	覆土中	
19	土師器	甕		[10.1]	5.2	粗砂粒、やや粗い	灰白7.5YR8/2	二次焼熱	体部外面縦のヘラ削り、内面ヘラナデ。底部木葉痕、黒煤。	覆土中	
20	土師器	甕		[6.4]	(9.0)	細砂粒	黄橙10YR8/6	良	底部はやや丸みを持ち、体部は球形を呈する。体部縦のヘラ削り、内面ヨコのヘラナデ。	覆土中	

第4号竪穴住居跡遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	硬度	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	14.9	3.5		細砂粒	明赤褐～明赤褐 5YR5/8 2.5YR5/8	良好	底部平底、底部から内折しながら立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、底部中央に不整板、内面ミガキ。	埋戻土中	
2	土師器	坏	14.8	3.6		微密・赤褐色粒	灰白～にぶい橙2 7.5YR8/2 5YR7/4	普通	底部平底、浮動しながら立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面ミガキ。口縁部に漆化土が残る。	カマド東側床面	
3	土師器	坏	14.0	3.4		微密・赤褐色粒	橙5YR6/6	良	底部平底、底部から内折しながら立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面ミガキ。口縁部に漆化土が残る。	埋戻土中	
4	土師器	坏	-	(2.6)		微密	浅黄橙10YR8/3	普通	底部平底、浮動しながら立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、底部中央に赤彩し痕、内面ミガキ。	埋戻土中	
5	土師器	坏	(14.8)	(3.8)		微密・赤褐色粒	にぶい橙～褐灰 5YR6/4 10YR4/1	やや甘い	底部平底、浮動しながら立ち上がる。口縁部ヨコナデ、底部から内折し、内面ナデ。口縁部に漆化土が残る。	埋戻土中	
6	土師器	坏	(15.4)	(4.4)		微密	浅黄橙7.5YR8/4	普通	底部平底、浮動しながら立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面漆化土が残る。	埋戻土中	
7	土師器	坏	(14.0)	(4.5)		微密・赤褐色粒	浅黄橙7.5YR8/6	普通	底部平底、浮動しながら立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面ミガキ。口縁部に漆化土が残る。	埋戻土中	
8	土師器	坏	(15.7)	4.4		微密	浅黄橙10YR8/3	全体に粉状	底部平底、体形に使を持ち、口縁部は外反する。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り。	埋戻土中	
9	須恵器	坏	(13.3)	3.8	(8.3)	明赤褐色・白色粒2.5Y3/4	明灰N3/0	焼き締まる	ロクロ整形、底部回転ヘラ削り、ロクロ目不明瞭。	埋戻土中	
10	須恵器	坏	(13.8)	3.5	(7.8)	細砂粒	灰N5/0	良好	ロクロ整形、底部別れる。	埋戻土中	
11	須恵器	坏	(12.8)	(4.1)		微砂粒・10mm礫	暗青灰5B6/1	良好	ロクロ整形、ロクロ目明瞭。	埋戻土中	
12	須恵器	蓋	(15.2)	(2.6)		細砂粒	暗灰N3/0	良好	ロクロ整形、口縁部は垂直に立ち上がる。内面熱炭。	埋戻土中	
13	須恵器	高台付坏		(1.7)	11.2	細砂粒・礫	灰白～にぶい黄橙 10YR7/1 10YR7/4	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ削り、ロクロ目不明瞭。高台部は為部分が脱れている。	埋戻土中	体形のみ欠いて、墨壺として使用か？
14	須恵器	高台付坏		(2.5)	(9.2)	細砂粒	褐灰10YR4/1	良好	ロクロ整形、底部ヘラ切り後付け高台。体部に焼土粒の痕跡、体部外面にヘラ記号「X」	埋戻土中	
15	土師器	甕	(21.5)	10.7		細砂粒	黒10YR1.7/1	やや甘い	底部は丸底風味で、口縁部まで直線的に開く。口縁部ヨコナデ、体部胴調整、内面煤のアテ。	カマド東側床面	
16	土師器	甕	(21.2)	(14.2)		石英粒・雲母粒	褐7.5YR4/6～にぶい橙 7.5YR7/4	普通	口縁部は外反し、長頸胴。体部はロクナデ、下位の広い法高で、体部との境に稜を有る。体部胴のヘラ削り、粘土紐の痕跡、内面ヨコのヘラナデ。	カマド西壁 覆土土中	
17	土師器	甕	(21.8)	(18.1)		金雲母・長石多く粗い	橙5YR6/6	普通	口縁部は上位で外反し、口縁部の先は上がり立遅のもれない。頸部は稀薄。口縁部ヨコナデ、体部胴調整、内面ヨコのヘラナデ、やや厚手。	カマド西壁 覆土土中	
18	土師器	甕	(23.3)	(21.4)		金雲母・長石	暗赤褐5YR3/0～7.5YR7/6	普通	口縁部は外反し、口縁部は直に立ち上がる。頸部は細形、口縁部胴調整、内面ヨコのヘラナデ。	カマド西側 覆土土中	
19	土師器	甕	(26.5)	(18.7)		石英粒・雲母粒	暗褐7.5YR3/3～暗褐10YR3/4	普通	口縁部は外反し、やや厚の張る長頸形。口縁部との差に稜に近のもれない。口縁部ヨコナデ、体部胴のヘラ削り、内面ヨコのヘラナデ。	カマド西側 覆土土中	
20	土師器	甕	(23.4)	(28.0)		石英粒・雲母粒	明赤褐5YR5/6	普通	口縁部は外反し、口縁部が三角形状となる。口縁部ヨコナデ、体部下半縦のミガキ、内面ヨコのヘラナデ	カマド付近	
21	土師器	甕	(24.2)	(14.0)		石英粒・雲母粒	にぶい褐 7.5YR5/4	普通	口縁部は外反する。口縁部ヨコナデ、体部胴のヘラ削り、内面ヘラナデ。	カマド付近	
22	須恵器	壺	-			微砂粒	灰白N7/0	普通	外面平行タタキ、内面胴内時の押さえ痕残る。	埋戻土中	
23	須恵器	壺	-			微砂粒、良質	灰白N7/0	良好	外面平行タタキ、内面沿押さえ	埋戻土中	
24	須恵器	壺	-			細砂粒、やや粗い	黄灰2.5Y6/1	普通	外面格子目タタキ、内面工具によるあて具痕	埋戻土中	

第5号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	硬度	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	(12.6)	4.0	(6.0)	微砂粒	浅黄橙10YR8/3	普通	球形状に立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り。口縁部に漆道有。	埋戻土中	
2	土師器	坏	(13.0)	(3.4)		密	浅黄橙7.5YR8/3	普通	平底状を呈する。口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り、漆処理。	埋戻土中	
3	土師器	坏		(2.1)		赤褐色粒	橙5YR7/6	普通	底部は平底を呈し、体部ヘラ削り、内面ナデ、漆処理。	埋戻土中	
4	須恵器	坏	(14.4)	(4.0)		細砂粒	灰白10YR7/1	普通	ロクロ整形、外面に焼土粒の痕跡。	埋戻土中	
5	土師器	甕	(19.6)	(3.5)		細砂粒、赤褐色粒	橙5YR6/6	普通	口縁部は外反して立ち上がる。口縁部ヨコナデ。	埋戻土中	

第6号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	硬度	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	(14.5)	(3.6)		良・赤褐色粒	明褐灰7.5YR7/1～浅黄橙 7.5YR8/4	普通	半球形を呈し、口縁部は直立する。口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り。内面ロクロナデ。口縁部に漆道有。	埋戻土中	
2	土師器	坏	(13.1)	4.2		良好・赤褐色粒多不	浅黄橙7.5YR8/6	普通	半球形状を呈し、口縁部は直立して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面ナデ。口縁部に漆道有。	埋戻土中	

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3	須恵器	壺	15.7	4.1		白色砂多く、3～6mm礫混じる	褐7.5YR4/3	甘い	ロクロ整形、ボタン状つまみ。甲を幅1.5～2cm の幅に同転ヘラ削りする。内面のロクロ痕跡を残り後っている。	瓦礫土中	
4	須恵器	高台付坏	(17.0)	(4.5)		4～5mmの礫混じる。	灰白2.5Y7/1	やや甘い	ロクロ整形、ロクロの痕跡は不明瞭。底部に高台の調整痕が認められる。	瓦礫土中	
5	須恵器	壺	(14.0)	(4.7)		白色砂	褐灰10YR6/1	良	ロクロ整形	瓦礫土中	
6	土師器	坏	(22.5)	(8.5)		細砂粒	浅黄橙10YR8/3～灰黄褐10YR4/2	普通	大きく八の字に開き、口縁部が短く立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体部外面上位ミガキ、下位ヘラ削り、内面ミガキ。	瓦礫土中	
7	土師器	壺	(15.5)	(6.8)		細砂粒、3～5mm礫含みやや粗い	黒褐7.5YR3/1	普通	口縁部は大きく外反し、体部は球形を呈する。口縁部ヨコナデ、縦のヘラ削り、内面ヘラナデ。	瓦礫土中	黒斑
8	土師器	壺	(18.2)	(7.0)		金雲母、2～3mm間	にぶい黄褐10YR5/4	普通	口縁部は外反して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	瓦礫土中	
9	土師器	壺	(22.5)	(10.2)		3～6mm雲母量に含み粗い	灰黄褐10YR4/2	普通	口縁部は外反し、体部は長胴形を呈する。口縁部はヨコナデ、体部縦のヘラ削り、内面ナデ。	瓦礫土中	
10	土師器	壺	-			細砂粒	灰黄褐10YR4/2～褐7.5YR4/4	普通	やや丸底気味を呈している。体部縦のヘラ削り、内面ナデ。	瓦礫土中	
11	土師器	壺	-			石英砂、雲母	黒10YR1.7/1～暗赤褐5YR3/6	二次被熱	体部外面縦のヘラ削り、下端横のヘラ削り、内面ナデ。	瓦礫土中	

第7号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.2	4.7		白色礫土粒子り、赤褐色粒	褐5YR7/6～黒10YR1.7/1	良	口縁部は外反して立ち上がり、体部に稜を持ち丸底。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面ロクロナデ。黒色処理。	瓦礫黒斑面	
2	土師器	坏	13.7	4.7		良好・赤褐色粒	にぶい橙7.5YR7/4～灰褐7.5YR5/2	良	口縁部は外反して立ち上がり、体部に稜を持ち丸底。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面ロクロナデ。口縁部に墨書有。	南瓦礫中央	
3	土師器	坏	(16.0)	(4.3)		良好・赤褐色粒	橙5YR7/6～褐7.5YR5/1	良	口縁部は外反し、底部は丸底。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面ヨコナデ。墨書有。	瓦礫土中	
4	土師器	坏	(14.2)	3.3	(7.2)	良好	灰白10YR8/2～褐7.5YR5/2	やや甘い	口縁部はやや内閉し、底部は丸底。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面ロクロナデ。	瓦礫土中	
5	土師器	坏	(12.2)	(3.3)		細砂粒若干混じる	浅黄橙7.5YR8/4～褐7.5YR6/1	やや甘い	平底形の器形を呈し、口縁部は短く立ち上がる。口縁部ヨコナデ体・底部ヘラ削り、内面ナデ。	瓦礫土中	
6	土師器	坏	16.9	3.5		良好、2mm礫混じる。	浅黄橙7.5YR8/4～灰褐7.5YR5/2	良	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は外反する。体部と底部の境に稜を持ち、底部は平底。口縁部ヨコナデ、底部ヘラ削り、内面ロクロナデ。	西瓦礫黒斑土中	
7	土師器	坏	(10.2)	(3.7)		良好・赤褐色粒	にぶい橙5YR7/4～灰白7.5YR8/2	良	口縁部は内閉して立ち上がり、体部に薄稜を稜を持ち、底部は平底。口縁部ヨコナデ、底部ヘラ削り、内面ナデ。墨書有。	瓦礫土中	
8	土師器	坏	(11.0)	(3.6)		良好	浅黄橙7.5YR8/6～灰白7.5YR8/2	良	口縁部は外閉して立ち上がり、体部に薄稜を稜を持ち底部は丸底。口縁部ヨコナデ、底部ヘラ削り、内面ロクロナデ。	瓦礫土中	
9	土師器	椀	(20.4)	(17.0)		やや粗い1～2mm雲母混じる	にぶい赤褐5YR5/4～灰褐7.5YR4/2	普通	口縁部は外反し体部は長胴を呈する。口縁部ヨコナデ、体部外面縦のヘラナデ、内面ヨコのヘラナデ。口縁部に粘土痕の痕跡。	瓦礫土中	
10	土師器	壺		(11.5)	4.9	粗い、1～2mm礫、雲母	明赤褐5YR5/6～灰褐7.5YR4/2	普通	小ぶりの底からやや短状に立ち上がる。底部平底	瓦礫土中	

第8号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.7	4.8		白色微砂	褐～黒褐	良好	口縁部ヨコナデ、体部縦い磨き、底部回り、内面放射状の粗い磨き。	南瓦礫土中	
2	土師器	手づくね	(9.0)	4.6		微密	灰白7.5YR8/2～褐7.5YR6/1	良好	口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、内面ナデ、体部に稜土紋の痕跡	瓦礫土中	
3	土師器	甕	(20.0)	20.9	9.2	赤褐色粒	橙7.5YR6/8～黒赤褐5YR2/8	良好	口縁部ヨコナデ、体部外面縦方向の刷り、下位太い格状の工具による粗い磨き。内面ヨコのヘラナデ、斜めのヘラナデ、底板。	北西床面	外面に黒斑、二次被熱による剥離上の剥れ

第9号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	(9.9)	3.5		微密・赤褐色粒	黒10YR1.7/1～暗赤褐5YR3/6	普通	底部は平底で、体部は球状を呈する。全体的に磨き が行われ、強が密有される。	瓦礫土中	
2	土師器	坏	(12.8)	4.5		赤褐色粒	橙5YR6/6	普通	平球形の形状を呈する。口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り、内面ロクロナデ。口縁部に粘土紋の痕跡、歪の変形。	瓦礫土中	
3	土師器	坏	(17.3)	5.0		赤褐色粒	淡橙5YR8/4	普通	体部に稜を持ち、口縁部は外側して立ち上がり、底部は丸底。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面ナデ。	瓦礫土中	
4	土師器	坏	(12.8)	(4.0)		赤褐色粒	褐灰10YR5/1	普通	口縁部は外側して立ち上がり、体部は平球形状を呈する。口縁部ヨコナデ、体部指頭整形、内面ナデ。	瓦礫土中	
5	土師器	坏	(14.0)	(4.5)		黒色粒・赤褐色粒	橙7.5YR2/6	普通	口縁部は直立して立ち上がり、体部は球状。口縁部ヨコナデ、体部薄変形、内面ナデ。体部外面に粘土紋の痕跡。	瓦礫土中	
6	土師器	手づくね	(10.0)	(3.8)		白色粒土混じる。赤褐色粒	橙5YR6/6	普通	口縁部は外側して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体部外面縦変型、内面ヘラナデ。	瓦礫土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
7	須恵器	蓋	(15.8)	(2.8)		粗砂多い	5R4.5/6	焼き締まる	ロクロ整形、ロクロ目良好に残る。かえりは直に立ち上がる。	建物土中	
8	須恵器	蓋	(16.5)	3.2		砂粒含みやや粗い、長石	灰白2.5Y7/1	やや甘い	ロクロ整形、平ヘラ削り、内面ナデ。つまみは中ふくら成形後、返りはやや外向き。	建物土中	
9	土師器	小形鉢	(14.0)	(8.2)			橙5YR6/6	普通	口縁部は外転して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体部縦の粗いハケ、内面ヨコのヘラナデ。	建物土中	黒斑
10	土師器	小形鉢	(11.6)	(5.1)		赤褐色粒・石英	橙7.5YR6/6	普通	口縁部は外反して立ち上がり、体部は球形を呈する。口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り、内面ヨコのヘラナデ。	建物土中	
11	土師器	壺	(16.6)	(3.2)		細砂粒	にぶい橙7.5YR6/3～褐灰7.5YR4/1	普通	口縁部は外反して立ち上がり、口縁部ヨコナデ。	建物土中	
12	土師器	甕	(23.0)			石英・赤褐色粒・2～3mm	橙7.5YR7/6	良好	口縁部は外転して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、肩のヘラ削り、内面ヨコのヘラナデ。	建物土中	

第10号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.3	4.5		細砂粒・雲	にぶい黄橙10YR7/4	普通	口縁部は内転し、ヨコナデ。体部強調整、粘土紐巻、底部丸底へラ削り、内面放射状の太い調整。	貯蔵穴底面	
2	土師器	坏	(13.8)	(3.9)		細砂粒	にぶい黄橙～黒10YR4/3 N1.5/0	普通	口縁部は内転し、ヨコナデ、体部ヘラ削り、内面放射状のミガキ。	建物土中	
3	土師器	坏	(15.0)	(3.9)		微砂粒	黒N1.5/0	良	口縁部は内閉し、ヨコナデのウミガキ。口縁部と体部の境に段が認められ、体部ヘラ削り、内面ミガキ。	建物土中	
4	土師器	坏	(12.0)	(4.1)		微密・赤褐色粒	灰黄褐10YR5/2～黒10YR2/1	普通	口縁部内転し、体部との境に段を持つ。口縁部ヨコナデ、体部上位強調整、内面ナデ。	建物土中	
5	土師器	坏	(12.7)	(4.2)		赤褐色粒・雲	橙～灰黄褐9.5YR6/6 10YR5/2	普通	口縁部は外反し、口縁部ヨコナデ、粘土紐の痕跡、体部ヘラ削り、内面ナデ、雲位上げ。	建物土中	
6	土師器	鉢	(13.6)	6.0		微密・雲	褐灰～にぶい橙10YR5/1 7.5YR6/4	普通	口縁部はヨコナデ、体部ヘラ削り、二次被熱。内面細いミガキ、口縁部雲位上げ。	貯蔵穴底面	
7	土師器	甕（手づくね）	(12.6)	4.6		微密・黒色粒	橙7.5YR7/6	普通	口縁部はヨコナデ、体部粗頂面、内面ナデ。	粗堆土中	
8	土師器	甕（手づくね）	(134.8)	4.2	(8.0)	微密・白色粒土混じる	橙5YR6/6	普通	口縁部はヨコナデ、体部強調整、内面ヘラナデ。	粗堆土中	
9	土師器	甕	(13.2)	12.9	5.0	2～3mm赤褐色粒	明赤褐5YR5/6	普通	口縁部はヨコナデ、体部縦のヘラ削り、底部単円。丸の外結へ向かう削り、内面ヨコのヘラナデ。黒斑。	貯蔵穴底面	
10	土師器	甕	(13.0)	(7.3)		微密	灰黄褐10YR5/2	普通	口縁部は中小外傾しヨコナデ、体部縦のヘラ削り、内面ヨコのヘラナデ、口縁部1cmほどが焼る。	粗堆土中	
11	土師器	鉢別変	(15.9)	[11.5]		微密・雲	橙～にぶい黄橙7.5YR7/6 10YR7/4	良好	口縁部はヨコナデ、体部縦のヘラ削り、内面ヘラナデ。	粗堆土中	
12	土師器	甕	(13.0)	[25.8]	(7.4)	細砂粒	黒～にぶい黄橙N1.5/0 10YR7/2	良好	口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り、内面指ナデ。	竈認面	黒斑
13	須恵器	長頸壺	-			細砂粒・雲	暗赤N3/0	良好	体部を縦状に成形した後、頸部を段り付けている。頸部内面と体部に自然降灰	竈認面	

第11号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	(19.6)			密・赤褐色粒	橙7.5YR7/6	普通	口縁部はやや内傾する。口縁部ヨコナデ、体～底部へヘラ削り、外面に粘土紐の痕跡。	粗堆土中	
2	土師器	坏	-			細砂粒	赤褐2.5YR4/6	普通	底部平粗、体～底部へヘラ削り、内面ミガき。	粗堆土中	
3	土師器	坏	(14.0)			細砂粒	浅黄橙10YR8/3	やや甘い	体部に段を持ち、口縁部は外反して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り。	粗堆土中	
4	土師器	坏	(14.0)	3.7		細砂粒	灰白10YR7/1～黒10YR1.7/1	普通	底部は平底気味で、口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体～底部へヘラ削り、内面ナデ。口縁部に歪の痕跡。	粗堆土中	
5	須恵器	蓋	(13.9)	4.7		硬赤褐色・細砂粒	暗赤褐色5YR3/3	良好	ロクロ整形。甲を剥転へヘラ削り整形。内面にロクロの痕跡が認められるが中央がすり減る。	粗堆土中	
6	須恵器	坏	(14.2)	3.8	(8.4)	細砂粒	暗青灰5B4/1	良好	ロクロ整形。底部剥転へヘラ削り、外面ロクロ目良好。	粗堆土中	
7	土師器	甕	(23.8)			石英・微砂粒	明赤褐5YR5/6	普通	口縁部外傾して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体部上位ヨコのヘラ削り。	粗堆土中	
8	須恵器	甕	(20.2)	[4.0]		密	黄灰N2.5Y4/1	良好	ロクロ整形。内外面自然降灰。	粗堆土中	
9	須恵器	甕	-			密・3～5mm	黄灰N2.5Y5/1	普通	外面平行タタキ、内面同心円あて具痕	粗堆土中	
10	須恵器	甕	-			細砂粒	黄灰N2.5Y5/1	良	外面平行タタキ	粗堆土中	
11	須恵器	甕	-			細砂粒・黒色粒	灰白2.5Y7/1	良	外面平行タタキ、内面に降灰。	粗堆土中	

第12号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	(18.1)	3.8		石英砂・褐砂粒若干、白色粘土混じる。	明赤褐5YR5/6～灰黄褐7.5YR6/4	普通	体部に段を持ち、口縁部は外傾して立ち上がり、底部は平円。口縁部ヨコナデ、体～底部へヘラ削り、内面ミガき。	南壁埋積土	

第12号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	成底	手法の特徴	出土位置	備考
2	土師器	坏	13.7	4.4		微砂粒	灰白10YR8/2	普通	体部に稜を持ち、口縁部は外反して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面ナデ、口縁部に沿道有。	北東第1住居土	
3	土師器	坏	11.3	3.4		1～2mm黒	浅黄橙10YR8/4	普通	口縁部は内傾して立ち上がり、体部に稜を持ち、半球形状を呈する。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面ヨクロナデ。	遺物土中	
4	土師器	手づくね	(7.6)	3.6	4.0	白色粒多に含む、赤褐色粒	橙5YR6/6	普通	口縁部はやや内傾し、底部は平底、体部は外傾して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体部ナデ、内面ヘラナデ。	中央黒粗土中	
5	土師器	手づくね	(10.1)	5.8		赤褐色粒	にぶい橙7.5YR7/4～明赤褐5YR5/6	普通	半球形状を呈し、口縁部はやや内傾する。口縁部ヨコナデ、体部ナデ、内面ヘラナデ。	中央黒粗土中	体部外面に黒斑
6	須恵器	蓋	16.3	3.9		白色粒、3～5mm礫	黄灰2.5Y4/1～灰白2.5Y8/1	良	全体に良好である。一部甘い部分がある。	北東隅黒粗土	内面に焼成時のクラックが入る。
7	土師器	小形甕	(12.7)	[11.5]		雲母、微砂粒	褐7.5YR4/3～にぶい褐7.5YR6/3	普通	口縁部は外反し、体部は球形を呈する。口縁部ヨコナデ、体部横のヘラ削り、内面円形の調整。	黒粗土中	一部煤付着
8	須恵器	壺				白色砂	明灰N7.5/1	良	ロクロ整形、内面ヘラナデ、外面時灰。	黒粗土中	
9	土師器	円筒土器	(10.5)	12.1	7.7	微砂粒	淡黄橙10YR8/3	普通	底部より緩慢に立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体部断調整、内外面に粗土紐の痕跡。	南東部遺物土中	

第13号竪穴住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	成底	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏		[5.6]		長砂、赤褐色粒	にぶい橙7.5YR7/4	良好	底部丸底で、体部に稜を持ち、口縁部はやや外反する。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、口縁部強調有。	遺物土中	
2	土師器	坏	(13.5)	3.5		微砂粒	灰白7.5YR8/1	やや甘い	底・体部平滑で、体部に稜を持ち、外反して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、口縁部は強調有。	南西黒粗土	
3	須恵器	坏	12.9	3.5	8.4	白色粒2～3mm礫	灰5Y5/1	良好	底部平滑で、外傾して立ち上がる。ロクロ整形、底部回転ヘラ削り、ロクロ痕跡は明瞭でない。	南壁際中央浅掘	
4	須恵器	坏	13.4	4.8	8.0	白色粒2～3mm礫をやや多く含む、やや粗い	灰N4/0	良好	底部平坦で、外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。ロクロ整形、底部回転ヘラ削り。	黒粗土中	
5	須恵器	坏	(13.1)	3.7	(7.6)	白色粒土若干混じる、3～4mm礫	灰N5/0	良好	底部の端の部分がやや丸みを持ちつつ、外傾して立ち上がる。ロクロ整形、底部回転ヘラ削り。	黒粗土中	
6	須恵器	蓋	15.2	2.9		白色粒	灰N6/0	良好	ロクロ整形、ボタン状のつまみ、甲の中央が回転ヘラ削り、広い浅き内面部が甲の部分で円形に変色している。	西壁際床面	
7	土師器	小形甕	(12.8)	[10.2]		細砂粒	にぶい赤橙5YR5/4～褐灰10YR4/1	普通	口縁部は外反して立ち上がり、胴部は膨張。口縁部ヨコナデ、体部縦のヘラ削り、内面指ナデ。	黒粗土中	
8	土師器	甕	(20.7)	[8.0]		石英、やや粗い	明赤褐2.5YR5/6	良好	口縁部は外反して立ち上がり、胴部はやや膨張。口縁部ヨコナデ、体部上位ななめヘラ削り、内面ヘラナデ。	カマド内	
9	土師器	甕	(22.5)	[18.2]		石英、やや粗い	黒褐10YR3/2～黒10YR2.7/1	二次被熱	口縁部は外傾して立ち上がり、胴部は膨張。口縁部ヨコナデ、体部縦のヘラ削り。	カマド西側	
10	土師器	甕	(24.0)	[10.4]		雲母、2～3mm の微含有。やや粗い	明褐7.5YR5/6	二次被熱	口縁部は外反して立ち上がり、先端は丸くつまみあがる。口縁部ヨコナデ。	カマド内	
11	土師器	甕	(25.1)	[5.3]		微砂粒	にぶい橙7.5YR6/4	良好	口縁部は外反して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体部上位ヨコのヘラ削り。	北東黒粗土	
12	土師器	甑		[5.3]	(7.7)	雲母微粒	にぶい黄橙10YR7/4	普通	底部平坦で、外傾して立ち上がる。底部中央に穿孔。体部縦のヘラ削り。	遺物土中	
13	須恵器	甕		[6.7]	(18.0)	白色粒土若干混じる	灰5Y5/1	普通	ロクロ整形	遺物土中	
14	須恵器	甕				長石・黒色粒	灰白N7/1	良好	胴部縦割を呈し、外部タタキ、内面同心円あて具痕。一部緑灰色の釉状。	北西黒粗土	

掘立柱建物跡・円形周溝遺構・土坑・井戸・溝出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	成底	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	(9.7)	[3.1]		微砂粒、赤褐色粒	浅黄橙7.5YR8/4～明褐5YR7.5YR7/1	やや甘い	体部に稜を持ち、口縁部は内傾して立ち上がる。口縁部ヨコナデ。	SK01.P4	
2	土師器	坏	(13.2)	[3.8]		微砂粒	灰白10YR8/1	やや甘い	体部に稜を持ち、口縁部は内傾して立ち上がり、底部は丸底。口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り。	SK01.P8	
3	土師器	手づくね	(9.0)	4.6	[3.7]	白色粒土混じる、赤褐色粒	橙5YR6/6	普通	体部稜を持ち、口縁部は外反して立ち上がる。口縁部ヨコナデ、内面指ナデ。	SK01.P2	
4	土師器	手づくね	(9.5)	[5.3]		赤褐色粒	橙5YR6/6～にぶい橙5YR6/4	普通	口縁部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部ヨコナデ、内面ナデ。	SK01.P2	
1	土師器	坏	(14.0)	[3.5]		赤褐色粒	にぶい黄橙10YR6/3	普通	口縁部は内傾して立ち上がり、体・底部は迷形。口縁部ヨコナデ、体・底部ヘラ削り、内面粗い磨き。	SK01	
2	土師器	坏	(12.2)	[3.2]		普通	にぶい黄橙10YR6/3	普通	口縁部は緩慢に立ち上がる。口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り。口縁部強調有。	SK03	
3	土師器	坏				赤褐色粒	赤褐2.5YR4/6	普通	半球形状を呈し、口縁部は短く立ち上がる。体・底部ヘラ削り、内面放射状のミガキ。	SK04	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	手づくね	(7.5)	[2.8]		非常色粒	橙5YR6/6	普通	口縁部ヨコナデ，体部外面に粘土紐の痕跡。	SK10	
2	土師器	坏	(16.0)	[4.2]		細砂粒	にぶい褐7.5YR5/4	普通	体部に被を持ち，口縁部は外傾気味にとちょうどる。口縁部ヨコナデ，体部指ナ，口縁部に漆塗存。	SK10	
3	土師器	坏	(10.6)	2.9	[4.7]	細砂粒	黄褐10YR5/6～明褐5YR5/6	普通	ロクロ整形，底部糸切り，内面ミガキ，黒色処理。	SK05	
4	土師器	坏	—	[1.6]	(5.3)	微砂粒，2～3mm間	明褐7.5YR5/6	普通	底部糸切り，ロクロ整形，内面ミガキ，黒色処理。	SK02	
5	須恵器	坏	(11.8)	4.8	[5.7]	細砂粒，雲母多混，3～4mm程	褐灰10YR6/1～5/1	普通	ロクロ整形	SK06	
6	須恵器	坏	(11.8)	[2.8]		微砂粒	褐灰10YR5/1	普通	ロクロ整形	SK11	
1	土師器	坏	(14.0)	[3.4]		普通	灰白7.5YR8/2	普通	口縁部に外傾して立ちあがる。口縁部ヨコナデ，体部に粘土紐の痕跡，内面漆塗存。	SE01	
2	須恵器	坏	—	[1.8]	(6.6)	黒色粒	黄褐2.5YR5/1	普通	ロクロ整形。	SE01	
1	須恵器	壺				白色砂	5GR4/0	普通	ロクロ整形，縦笠状部のつまみ。切の中央を回転ヘラ削り。	SD01	

9号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	12.8	4.0	5.7	白色粒，3～4mm間混じる。	灰5Y6/1	良好	ロクロ整形，体部下半手持ちヘラ削り，底部多方向のヘラ削り。	粗堀土中	内面に漆付着。三和産。

鉄製品観察表

番号	出土遺構	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
1	SI07	刀子	81	14	3.5	7.4	刃部と茎を欠損する。
2	SI04	刀子	41	9	3.5	4.9	刃部と茎を欠損する。
3	SI13	刀子	42	8	2	2	刃部と茎を欠損する。
4	SI04	鎌	167	39	3	88.3	完形品。刃がよく使いこまれていると推測される。
5	SI09	鎌	35	25	3.5	9.8	先端の破片。
6	SI04	鎌	47	21	2.5	8.6	先端の破片。
7	SI08	鎌	56	34	2.5	17.5	基部の破片。
8	SI04	鎌	68	23	2.5	19	基部の破片。
9	P9	鎌	47	36	2.5	22.7	基部の破片。
10	SI07	鉋尾？	86	17	4.5	21.9	刃部が断面三角形をし，欠損している。茎に木質が残る。
11	SI07	鉋尾？	95	13	4.5	16.2	刃部が断面三角形をし，欠損している。茎に木質が残る。
12	SI07	鉈	135	5.5	4.5	14.3	茎を欠損する。棘状突起がある。鞘瓦鉈鞘（柳根式）
13	SI07	鉈	90	5	4	7.2	刃部と茎を欠損する。棘状突起がある。鞘瓦鉈鞘（柳根式）
14	SI04	鉈	91	3.5	4	9.1	茎を欠損する。棘状突起がある。鞘瓦鉈鞘（柳根式）
15	SI01	鉈	99	5	5.3	11	刃部と茎を欠損する。
16	SI11	鉈	58.5	4.5	3.5	3.3	刃部と茎を欠損する。
17	SI03	鉈	29	31	2.5	4.1	三角鉈。茎を欠損する。
18	SI11	刀子・鎹	40	8	4.5	4.1	棒状の鉄製品で，刀子とも鎹の茎かいずれのものと考えられる。
19	SI04	刀子・鎹	27	8	4.5	2.7	棒状の鉄製品で，刀子とも鎹の茎かいずれのものと考えられる。
20	SI04	刀子・鎹	19	4	2	0.7	棒状の鉄製品で，刀子とも鎹の茎かいずれのものと考えられる。
21	SI07	刀子・鎹	26	4	3.5	1.3	棒状の鉄製品で，刀子とも鎹の茎かいずれのものと考えられる。
22	SI07	鬼	51	6.5	6.5	13.6	全体にコ字形を呈し先端が尖たくなり，鋭が強ち込まれている。片側は欠損する。

砥石観察表

番号	出土遺構	石質	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
1	SI04		143	79	27	607	側面の四面が使用されているが，那は整っていない。
2	SI07	凝灰岩	81	52	51	183	表裏両面が使用され，中央部でかけている。
3	SI07	凝灰岩	66	30	11	60	側面の四面が使用され両端が欠損する。

4 総 括

西刑部西原遺跡F区の調査において，竪穴住居跡14軒（建て替え・拡張を含めると21軒），掘立柱建物跡3棟，円形周溝遺構3基，土坑19基，井戸跡1基，溝1条，小穴66基を確認した。遺構は出土遺物や堆積土から古墳時代後期から平安時代にかけてのものであることが判明した。主たる時代は奈良時代である。以下に，遺構ごとにまとめてみたいと思う。

竪穴住居跡　8号竪穴住居跡，10号竪穴住居跡は調査区の北西に位置し，調査区外に延びているため全体を調査しえなかった。両者ともに南壁中央に張り出し部を持ち，貯蔵穴が認められる。また，間仕切り溝も確認できた。床面は硬化面が僅かであり，掘方も不明瞭で，Ⅴ層を掘り込み，Ⅵ層まで達していなかった。8号竪穴住居跡の出土遺物は口縁部がやや内傾し，体部外面にミガキを施す土師器坏，10号竪穴住居跡は口縁部が内傾する模倣坏が出土している。このことから，両者の時期は6世紀後半と推測される。7号竪穴住居跡は今次調査で確認した竪穴住居跡の中で最大規模である。長軸8.7，短軸8.2mを測る。内側に1軒（建て替えの痕跡があり，2軒に相当する）がある。カマドは北壁中央に設けられ掘方が凸形に掘り込まれている。出土遺物は土師器内湾口縁坏が出土していることから，7世紀後半と推測される。そのほか，鉄鏃（練篦被鏃）が出土している。13号竪穴住居跡は長軸4.6m，短軸4.3mの方形で，北壁中央にカマドが設けられている。壁溝は全周し，東西に旧壁溝が確認された。主柱穴は6本確認し，東辺のみ建て替えられていた。カマドは凸形に掘り込まれ，燃焼部掘方壁面に段が認められ，この段から天井が構築されていたと推測される。出土遺物は底部回転ヘラ削りの須恵器坏，リング状のつまみを持った須恵器蓋が出土している。3号竪穴住居跡，6号竪穴住居跡はともに東壁中央にカマドが設けられている。3号竪穴住居跡は南・西壁際に溝状に，またカマド前に土坑状の掘方が掘り込まれ，床面中央が固く締まっている。6号竪穴住居跡は周囲を溝状に掘り窪め，中央を掘り残して構築されている。出土遺物に半球形状の土師器坏，疑宝珠状のつまみを持った須恵器蓋が出土していることから，8世紀前半と推測される。また，9号竪穴住居跡の旧カマドが東壁に設けられていることから，9号竪穴住居跡の旧住居跡はこの時期に相当するものと考えられる。4号竪穴住居跡・9号竪穴住居跡は北壁にカマドを持ち壁溝が全周する。主柱穴が複数あり，建て替えが行われていたと考えられる。掘方は四隅を浅く掘り窪めている。平底を呈し，内面ミガキが施される土師器坏が出土していることから，8世紀中葉と考えられる。11号竪穴住居跡は建て替えの痕跡が認められず，床面は直床で硬く締まっていた。部分的に砂質土とロームで貼り床が行われている。出土遺物も僅かである。12号竪穴住居跡は主柱穴が確認できなかった。カマドは北壁の中央東寄りに設けられている。皿状の内湾口縁坏，つまみがやや高い疑宝珠の須恵器蓋が出土している。円筒土器が出土しているが，製塩土器の一種なのだろうか。1号竪穴住居跡，2号竪穴住居跡は北東隅に位置し，調査区外に延びている。掘方が殆ど捉えられなかった。1号竪穴住居跡からは底部糸切りの須恵器坏，2号竪穴住居跡からは須恵器高台付坏，かえりの外反する須恵器蓋などが出土していることから，9世紀前半と考えられる。5号住居跡，14号住居跡は出土遺物が僅かであり，時代を決めかねる。

掘立柱建物跡　出土遺物が小量なため時代を特定できないが，竪穴住居跡との切り合い関係や主軸方向から考えた。1号掘立柱建物跡は土師器内湾口縁坏や手づくね土器の破片が出土し，主軸方向が7号竪穴住居跡・13号竪穴住居跡と同一方向を示すため，7世紀後半と考えたい。2号掘立柱建物跡は3基の掘立柱建物跡の内でもっとも大型の柱掘方を持ち，7号竪穴住居跡・8号竪穴住居跡を切っている。調査区外に伸びているため大きさを捉えることはできないが，側柱建物の南北棟と考えられる。3号掘立柱建物跡は桁行6.6m，

梁行4.5mの南北棟で13号竪穴住居跡を切っている。2号掘立柱建物跡・3号掘立柱建物跡は遺物が出土していないものの主軸方向が1号竪穴住居跡・2号竪穴住居跡とほぼ同じ方向を示すことから8世紀後半から9世紀前半と考えたい。

円形周溝遺構　調査区の南西隅位置し，3基が重複している。直径3～4mの楕円形を呈し，幅28～60cmの溝状の掘り込みを確認した。遺物の出土量が少ないが図示した遺物から判断して6世紀後半の所産と考える。

土坑　SK02～05・07・10～19は円形，規模は直径0.7～1.5m，深さ19～38cmを測り，SK04がやや深い51cmである。SK08は長径1.08，短径0.82mの楕円形である。SK06は1号井戸と重複し切られているため，平面形は不明であるが，深さは123cmを測る。出土遺物が少なく時代を特定することはできないが，出土遺物と竪穴住居跡との切り合い関係からSK02・03・05・10・12は9世紀代の所産と考えられる。SK09は平面楕円形を呈し，規模は長径2.46，短径1.48m，深さ48cmである。底面が長軸方向に段を有している。埋積土は人為的埋戻しである。遺物は須恵器坏完形(1)が埋積土中より出土した。このような状況から本土坑は土壙墓判断される。遺物は体部下半部を手持ちヘラ削りする手法や胎土から茨城県古河市所在の三和窯産の製品と考えられ，9世紀中葉の所産と考えられる。隣接する3号掘立柱建物跡とは時期が近接すると考えられるが，関係は不明である。

井戸跡　1号井戸の1基を確認した。6号土坑と重複しているため，詳しい平面形は不明であるが，半ば以降で隅丸方形となる。出土遺物は上層から土師器・須恵器片が出土したが中層からはほとんど出土しなかったため時期を特定できないが，平安時代の所産と推測される。

溝　1号溝は調査区のほぼ中央を南北に通り，北は調査区外に延び，南は攪乱によって切られている。7号竪穴住居跡と1号掘立柱建物跡を切っている。出土遺物は土師器・須恵器などの細片が出土したがそのほとんどは流れ込みと考えられ，時期を特定することができなかった。

第3表　遺構別時期一覧表

時期＼遺構	竪穴住居跡	掘立柱建物跡	円形周溝遺構	土坑	井戸	溝
6世紀後半	SI08・10		SX01・02・03			
7世紀後半	SI07A・13	SB01				
8世紀前半	SI03・06					
8世紀中葉	SI04・09・11・12					
9世紀前半	SI01・02	SB02・03		SK02・03・05・10	SE01	
9世紀中葉				SK09		
時期不明	SI04・14					SD01

西刑部西原遺跡は従来の調査では6世紀代から集落が営まれ，7世紀代から9世紀代にかけての時期が主体の集落跡が確認されており，今回の調査も同時代の遺構が確認され，奈良時代が主体であることを確認できたことが大きな成果である。しかし，一般県道二宮宇都宮線砂田工区の調査や西側に道路を挟んで隣接する西刑部西原遺跡E区の調査では奈良時代の遺構が殆ど確認されていない。E区との間はわずか7～80mにもかかわらず，集落を構成する遺構の時期にずれがあることは本調査区を考えるうえで大きな課題となると

思われる。ただし，本遺跡の総面積138,000㎡に対し今次行った調査面積は1,692㎡であり，全体の1.2%に過ぎない。遺跡全体からこの問題にあたるのは早計に過ぎると考えられる。

本遺跡出土の遺物は須恵器が土師器に比べ，その破片の点数で比べれば須恵器が少ないのが特徴といえる。須恵器坏は底部回転ヘラ削り，糸切りのものが殆どで，ヘラ切りのものは確認できなかった。また，SK09からは三和窯産の須恵器坏が出土しているが，新治窯跡の製品は確認されていない。

参考文献

白崎智隆　2010　宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第76集「西刑部西原遺跡（E区）」 宇都宮市教育委員会
植木茂雄　2010　栃木県埋蔵文化財調査報告第329集「西刑部西原遺跡」 (財)とちぎ生涯学習文化財団

第42図　遺構変遷図

6c後
7c後
8c
9c前・中
時期不明

報告書抄録

ふりがな	にしおさかべにしはらいせき　えふく
書　　名	西刑部西原遺跡　F区
副　書　名	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第86集
編 著 者 名	今平利幸，三輪孝幸
編 集 機 関	日本窯業史研究所　〒324-0611　栃木県那須郡那珂川町小砂3112　TEL 0287-93-0711
発 行 機 関	宇都宮市教育委員会　〒320-8540　栃木県宇都宮市旭1-1-5　TEL 028-632-2764
発 行 年 月 日	西暦2014年3月31日（平成26年3月31日）

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号					
西刑部西原遺跡（にしおさかべにしはらいせき）	栃木県宇都宮市（とちぎけんうつのみやし）インターパーク（インターパーク）4丁目（ちょうめ）2-2	09201	43540	36°29′43″	139°54′44″	20130812～20131015	1,692㎡	結婚式場建設

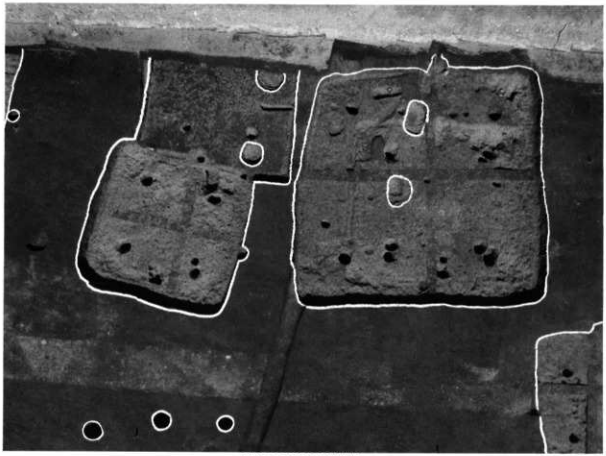
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
西刑部西原遺跡	集落跡	古墳	竪穴住居跡	4軒	土師器，須恵器	
			掘立柱建物跡	1棟	土師器	
			円形周溝遺構	3基	土師器	
		奈良・平安	竪穴住居跡	8軒	土師器，須恵器	
			掘立柱建物跡	2棟	石製品	
			土坑	6基	鉄製品	
		時期不明	竪穴住居跡	2軒		
			土坑	13基		
			溝	1条		
			小穴	66基		
要　　約	古墳時代後期から平安時代の集落跡。古墳時代後期SI08・10を集落の緒元とするも，このあと約1世紀の間集落は営まれない。こののち，奈良時代に入り集落は規模を拡大する。その表れとして，この時期の竪穴住居跡はそのほとんどに建て替えが認められる。その後平安時代に入り，集落は衰退し，消滅してしまう。					

写真図版

調査区遠景（南東から）

調査区遠景（北から）

図版 2



SI07・08・09・SB02(空撮)

SI01(南から)

SI02(南から)

SI03(西から)

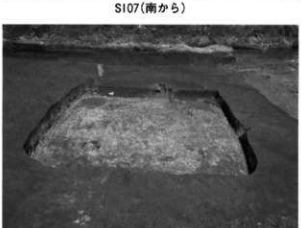
SI04(南から)

SI05(南から)

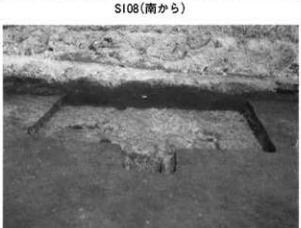
SI06(西から)

SI07(南から)

SI08(南から)



SI09(南から)



SI10(南から)

SI11(南から)

SI12(南から)

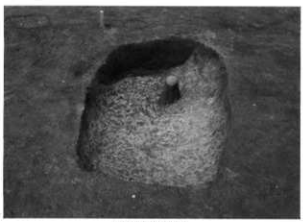
図版 4

SI13(南から)

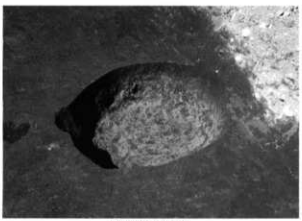
SB01(南から)

SB03(南から)

SX01・02・03(南から)



SK09(南から)



SK04(南東から)

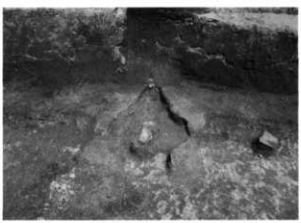
SE01(南西から)

SD01(南から)

SI03カマド(西から)

SI04カマド(南から)

SI06カマド(西から)



SI07カマド(南から)

SI11カマド(南から)

SI12カマド(南から)

SI13カマド(南から)

SI13カマド掘方(南から)

図版6

SI01遺物出土状況(北から)

SI04遺物出土状況(南から)

SI07遺物出土状況(南から)

SI10遺物出土状況(北から)

SI12遺物出土状況(南から)

SI13遺物出土状況(東から)

SI13遺物出土状況(北から)

SK09遺物出土状況(東から)

10-3

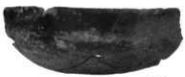
10-7

13-1

13-2

13-3

13-6


15-1

17-2

20-1

20-2

20-6

21-1

23-1

23-2

23-5

24-1

24-5

24-6

24-4

26-4

28-1

28-2

28-5

31-1

出土遺物（土師器坏・椀）

図版 8

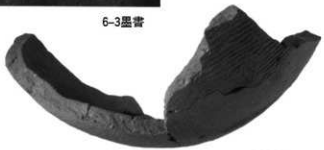
6-3

6-10

7-4

6-3墨書

10-12


14-22

17-3

23-7

24-13

23-8

26-5

28-6

31-3

31-4

31-5

31-6

37-1

出土遺物（須恵器坏・高台付坏・蓋・甕・壺）

6–7

10–15

10–17

13–15

13–16

13–17

13–18

13–20

出土遺物（土師器鉢・甕）

20-9

21-3

24-9

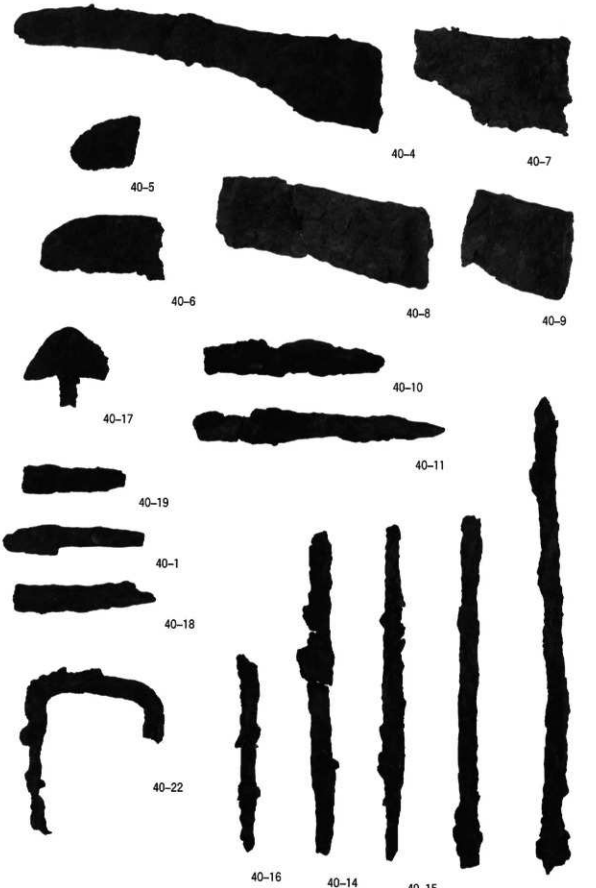
24-12

28-7

28-9

31-10

出土遺物（土師器小形甕・甕・甑・円筒土器）


40-4
40-7
40-5
40-6
40-8
40-9
40-10
40-17
40-11
40-19
40-1
40-18
40-22
40-16
40-14
40-15
40-14
40-12

出土遺物（鉄製品）

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書　第86集

西刑部西原遺跡（F区）

発行日　2014（平成26）年3月
編　集　日本窯業史研究所
〒324-0611　栃木県那須郡那珂川町小砂3112
TEL 0287-93-0711
発　行　宇都宮市教育委員会
〒320-8540　栃木県宇都宮市旭1-1-5
TEL 028-632-2764
印　刷　㈱松井ビ・テ・オ・印刷